

OKINAWA ARTS COUNCIL

令和6年度
沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集
2024 > 2025





**OKINAWA
ARTS COUNCIL
2024 > 2025**

OKINAWA ARTS COUNCIL 2024 > 2025

令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集

目次

- P.03 ごあいさつ
- P.04 沖縄アーツカウンシルとは？
- P.06 令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 公募について
- P.08 令和6年度採択事業者の活動拠点
- P.09 採択事業者の活動と他分野とのつながり
- P.10 支援事業のご紹介【団体】
- P.24 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
一般社団法人ビューローダンケ
- P.25 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
有限会社スーチューマー
- P.26 支援事業のご紹介【スタートアップ】
- P.31 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
一般社団法人UNIVA
- P.32 支援事業のご紹介【個人事業主】
- P.39 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
波平直毅
- P.40 令和6年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
「オキナワ担い手未来」
- P.41 令和6年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
「ぶんかとほじょきんそうだん会」
- P.42 令和6年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
ウェブサイト「沖縄県文化芸術名鑑」
トークイベント「Okinawa Arts Meeting」
- P.43 令和6年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
「第2回 先島文化ミーティング」
令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 採択件数・補助金額
- P.44 編集後記

はいさい ぐすーよー ちゅうがなびら

(公財)沖縄県文化振興会では、文化芸術に関わる県内の団体や個人を支援することにより、本県の多様で豊かな文化芸術活動の持続的な発展を図ることを目的に、沖縄県からの委託を受けて沖縄文化芸術の創造発信支援事業を実施しています。

本事業では、「文化芸術活動への支援」「人材育成」「情報発信」という3つのプログラムを軸にした文化芸術振興に取り組んでおり、令和6年度の各プログラムの実施状況を、事例集「OKINAWA ARTS COUNCIL 2024>2025」として本冊子に取りまとめました。

まず、令和6年度の「文化芸術活動への支援」では、昨年度の1.5倍となる66件の芸能や音楽、演劇、食文化など多岐にわたる事業の申請をいただきました。これについてアドバイザリーボード委員の皆様による4日間にわたる審査と議論を経て、23件を採択いたしました。採択事業は文化芸術の現場経験や専門性を持つプログラムオフィサーが伴走し、活動をサポートして参りました。これらの事業では、芸能の継承や発信の試み、伝統技術を核とした新たな表現の探究、インターネット上に構築する「仮想空間」を活用したメディア芸術、アーティストの労働環境や創作環境を見つめなおす実践、戦争や平和について考える場など、時代の変化や社会的な課題などをとらえた多様な事業が展開されました。県民の皆様には、こうした文化芸術の多様な取り組みと、その担い手の熱い想いに触れていただければ幸いです。

2年目となる人材育成プログラム「オキナワ担い手未来」では、前年度の受講生が中心となり、那覇市太平通り商店街でのリサーチを重ね、交流の場づくりやパフォーマンス企画の実施をとおして実践的な学びにつなげました。さらに、文化芸術の専門家やアーティストをゲストに招いた2日間の集中講座を石垣市にて開催し、地域に根ざした文化芸術活動の可能性を模索す

る契機としました。

県内アーティストや文化施設等の情報を発信するウェブサイト「沖縄県文化芸術名鑑」では、定期的なインタビュー記事の掲載に加え、周知広報を兼ねたトークイベント「Okinawa Arts Meeting」を那覇市と宮古島市の2か所で開催し、美術や音楽、伝統芸能や工芸など、幅広い分野の方々と沖縄の文化芸術について対話を重ねました。今後の活動にもぜひご注目ください。

今年は、戦後80年を迎える年になります。変化に満ちている時代だからこそ、歴史から何を学び、未来に向かってどのような社会をつくっていくのか、問い続けていかなければなりません。時代の変化にしなやかに対応すべく、多様な主体とも連携しながら、引き続き沖縄の文化芸術振興に尽力して参ります。

結びに、本支援事業の実施にご協力をいただきました関係者の皆様方に、心からの敬意と感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



公益財団法人沖縄県文化振興会
理事長 金城 賢



沖縄アーツカウンシルとは？

沖縄の多様な文化芸術活動の持続的発展を図るため、補助金公募や担い手育成プログラムの実施、相談窓口の開設など、幅広い分野を対象に多角的な支援を行います。

沖縄は古来、アジア諸国との交易を通じて多様な文化芸術を受け入れ、沖縄の精神的、文化的風土と融合させることで、亜熱帯の海に囲まれた美しい島々に、独特の文化芸術を育ててきた。文化芸術は、県民の生活に深く根ざし、繰り返された世変わりにおいても、新たな時代を切り開く心のよりどころとなった。文化芸術は、長い歴史の過程で積み上げられ、伝えられた英知の結晶であり、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の発展に欠かせないものである。このような認識に立ち、私たちは、かつて琉球の時代に人と文化の架け橋となった先人の万国津梁(しんりょう)の精神を受け継ぎながら、守り育ててきた文化芸術を次代に引き継ぐとともに、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造していくことを決意し、この条例を制定する。

(沖縄県文化芸術振興条例 前文より)

こうした認識に立ち、公益財団法人沖縄県文化振興会では沖縄県からの委託を受け、沖縄版アーツカウンシル機能を導入した「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」に取り組むことで、県内の文化芸術団体等へのさまざまな支援を行っています。

沿革

平成5(1993)年度

財団法人沖縄県文化振興会設立

平成23(2011)年度

公益財団法人沖縄県文化振興会へ名称変更。

沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される。

平成24(2012)年度

～平成28年(2016)年度

文化振興の主要事業として、一括交付金を活用した「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」を実施。

平成29(2017)年度

～令和3(2021)年度

「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施。

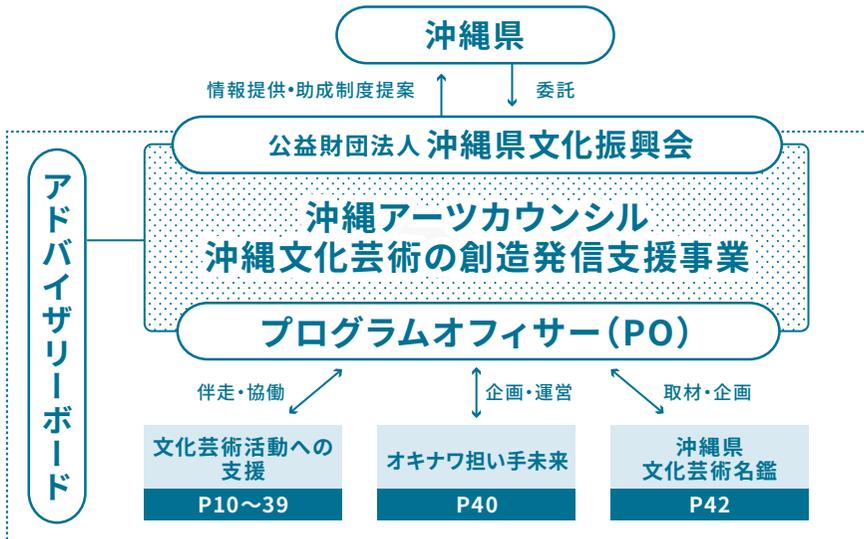
令和4(2022)年度～

「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」を開始。令和8(2026)年度までの継続を予定している。

関連する条例・施策



沖縄県文化振興条例





メンバー紹介

アドバイザーボード(AB)

アドバイザーボード(AB)は、沖縄県内外の文化芸術分野における専門家等で構成され、事業の選定及び評価・検証、アーツカウンシル機能全般への助言を担います。

那覇文化芸術劇場なはーと企画制作グループ長

林立騎 Tatsuki Hayashi

八重山郷土史家

大田 静男 Shizuo Ota

那覇市若狭公民館 館長 / NPO法人地域サポートわかさ理事

宮城 潤 Jun Miyagi

プロジェクト・コーディネーター / 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授

若林 朋子 Tomoko Wakabayashi

プログラムオフィサー(PO)

プログラムオフィサー(PO)は、採択事業へのハンズオン支援をはじめ、文化芸術に関する相談対応、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行います。

チーフプログラムオフィサー

上地 里佳

Rika Uechi

宮古島市出身。大学院でアートプロジェクトの現場に携わったことを機に、2013年東京アートポイント計画「三宅島大学」で、2014年より富山県氷見市を拠点とするアートNPOヒミングで活動。2016年からはアーツカウンシル東京にて、東京アートポイント計画、Tokyo Art Research Labを担当し、2021年より現職。

具志 幸大

Yukihiro Gushi

那覇市出身。沖縄舞踊、琉球古典音楽実演家。沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修了。2001～2002年世田谷パブリックシアター&佐敷町シュガーホール共同製作「音楽劇ふたごの星」出演。2006年、2021年、2025年に舞踊リサイタル開催。2008年古典音楽と創作曲による演奏会開催。12年間にわたり県内の高校生に琉球芸能を指導。2022年より現職。2024年10月より沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻非常勤講師。

小川 恵祐

Keisuke Ogawa

山形県出身。沖縄県立芸術大学大学院修了。2017～2022年南城市文化センターシュガーホールにて音楽公演の企画制作や教育事業を担当し、2022年より現職。並行してフリーランスの舞台芸術制作者として、琉球芸能や現代音楽、現代演劇、コンテンポラリーダンス等のプロジェクトに取り組んできた。

橋口 知佳子

Chikako Hashiguchi

栃木県出身。大学で建築・まちづくりを学んだのち、大学院で文化施設での文化芸術活動に関する研究を行った経験から、全国の劇場・ホール施設の計画・設計のコンサルティングを行う会社に就職。3年間従事した後沖縄に移住し、2022年より現職。

喜舎場 梓

Azusa Kishaba

那覇市出身。沖縄県内の民間劇団にて、16年間、舞台制作・芸能マネージャーとして従事。地域課題の解決・緩和に向けた演劇ワークショッププログラムを開発するなど、ワークショップコーディネーターとしても活動している。主なプロデュース公演に、令和3・4年度文化庁戦略的芸術文化創造発信支援事業「黄金文化再発見」(主催：日本劇団協議会)などがある。2023年より現職。

担当文化専門員

国永 美智子

Michiko Kuninaga

石垣市出身。台湾の大学院修士課程で八重山と台湾の関係について研究したほか、与那国町久部良小学校と台湾の小学校との児童宿泊交流で通訳兼コーディネートを担当。日本の大手新聞社台北支局での助手や、石垣市文化財課の発掘作業調査員や営業職に従事。共編著に『石垣島で台湾を歩く』(沖縄タイムス社/2012年)。2021年より沖縄県文化振興会で文化観光戦略推進事業、文化資源を活用した沖縄の魅力アップ支援事業を担当。2024年より現職。

奥間 恵

Megumi Okuma

宜野湾市出身。沖縄県内の飲食チェーンで20数年企画・開発の業務に携わり、主に商品開発を担当。その後ショッピングセンターのカスタマーサポート業務、航空会社のサービス及びオフィスワークに携わり、2024年より現職。

文化囀託員

八巻 真哉

Shinya Yamaki

愛知県出身。前職では京都府文化スポーツ部文化スポーツ芸術課に所属し、地域文化振興担当として、京都府域展開アートプロジェクト事業や京都府地域文化創造促進事業等のプログラムディレクターを務める。京都府地域文化創造促進事業では、文化活動を支援する専門人材(地域アートマネージャー)を京都府の広域興局に配置し、それぞれの地域で文化活動を支援する体制を作っていた。



令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 公募について

「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」では、文化芸術に関する事業を行う県内の団体や個人事業主を対象に、3つの区分で公募を実施し、採択された事業を支援しています。

補助対象/補助上限額

| | 条件 | | 条件 | | 条件 |
|-----------|-------------------------------|----------------|---|--------------|--|
| 団体 | 県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体 | スタートアップ | 県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体 <small>※「団体設立から5年未満」または「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業の採択実績がない」団体</small> | 個人事業主 | 県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う個人事業主 |
| | 補助金額 | | 補助金額 | | 補助金額 |
| | 上限500万円 | | 上限100万円 | | 上限100万円 |
| | 補助率 | | 補助率 | | 補助率 |
| | 1年目=90% 2年目=80% 3年目=70% | | 1年目=90% 2年目=80% 3年目=70% | | 90% <small>※個人事業主の補助回数は1回限り</small> |

事業区分

区分1 文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み

- ・文化芸術活動の継続や強化に向けて、事務局体制の向上や基盤強化を図る取り組み
- ・文化芸術活動を支える担い手等の育成・継承に関する取り組み
- ・個人事業主による文化芸術活動の継続や強化に向けた自己研鑽に係る取り組み
- ・オンライン配信や映像制作のスキルアップのための取り組み など

区分2 文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み

- ・認知度の向上やリピーター獲得に向けた体系的な計画を有する取り組み
- ・創作人材の育成に係る魅力ある創造発信を伴う取り組み
- ・アーティストの交流等を促進する取り組み
- ・一過性のイベントではなく、新規性が見られるライブや上映会、公演、展覧会 など

区分3 文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み

- ・県内の民間事業所(観光、まちづくり、産業等関連分野)や教育機関(各種学校、図書館、博物館、公民館等)と連携して行う取り組み
- ・共生社会実現に向けて関係機関(福祉、国際交流等関連分野)と連携して行う取り組み など

令和6年度公募期間

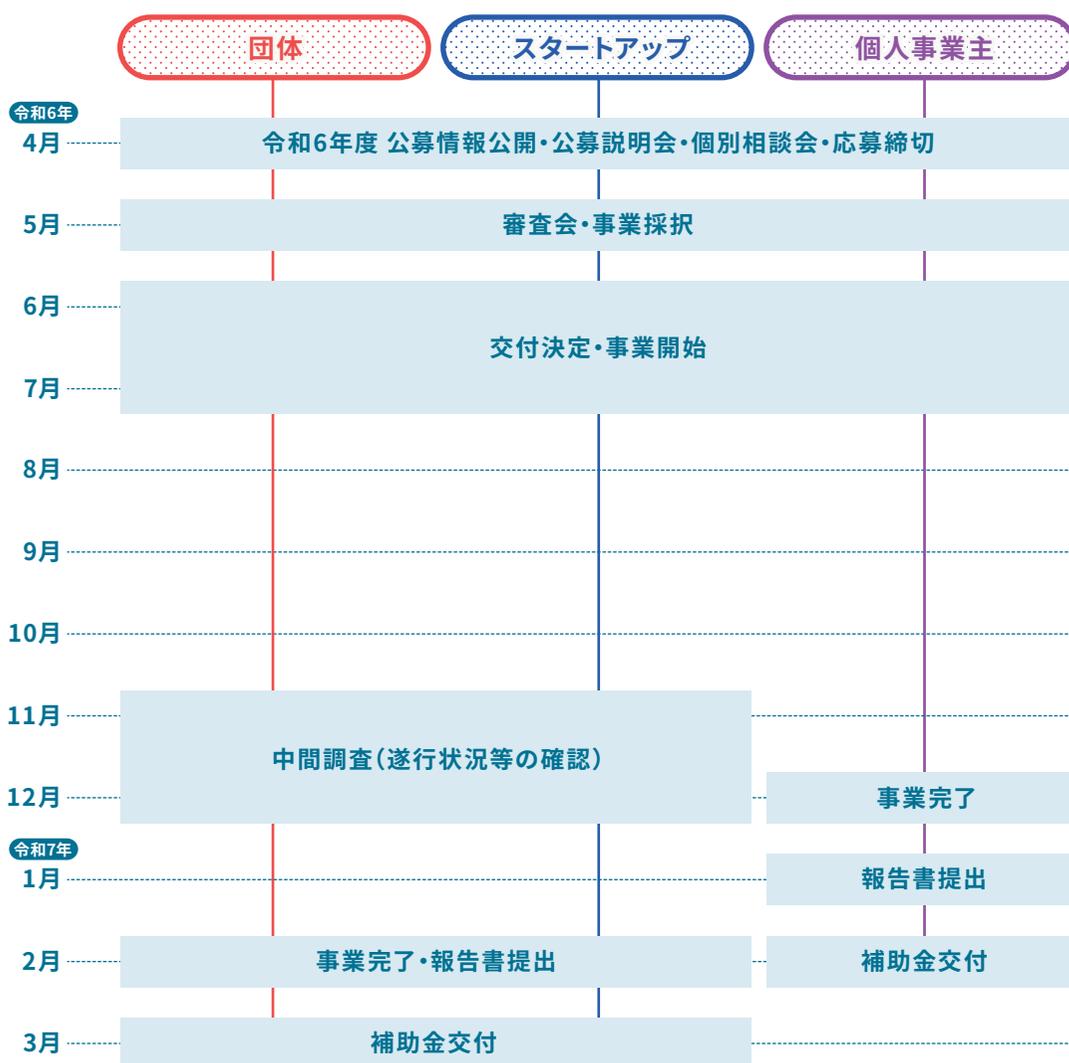
団体/スタートアップ/個人事業主

相談期間 3月18日(月)～4月12日(金)

受付期間 4月15日(月)～4月18日(木)

応募数 団体 41件 / スタートアップ 13件 / 個人事業主 12件

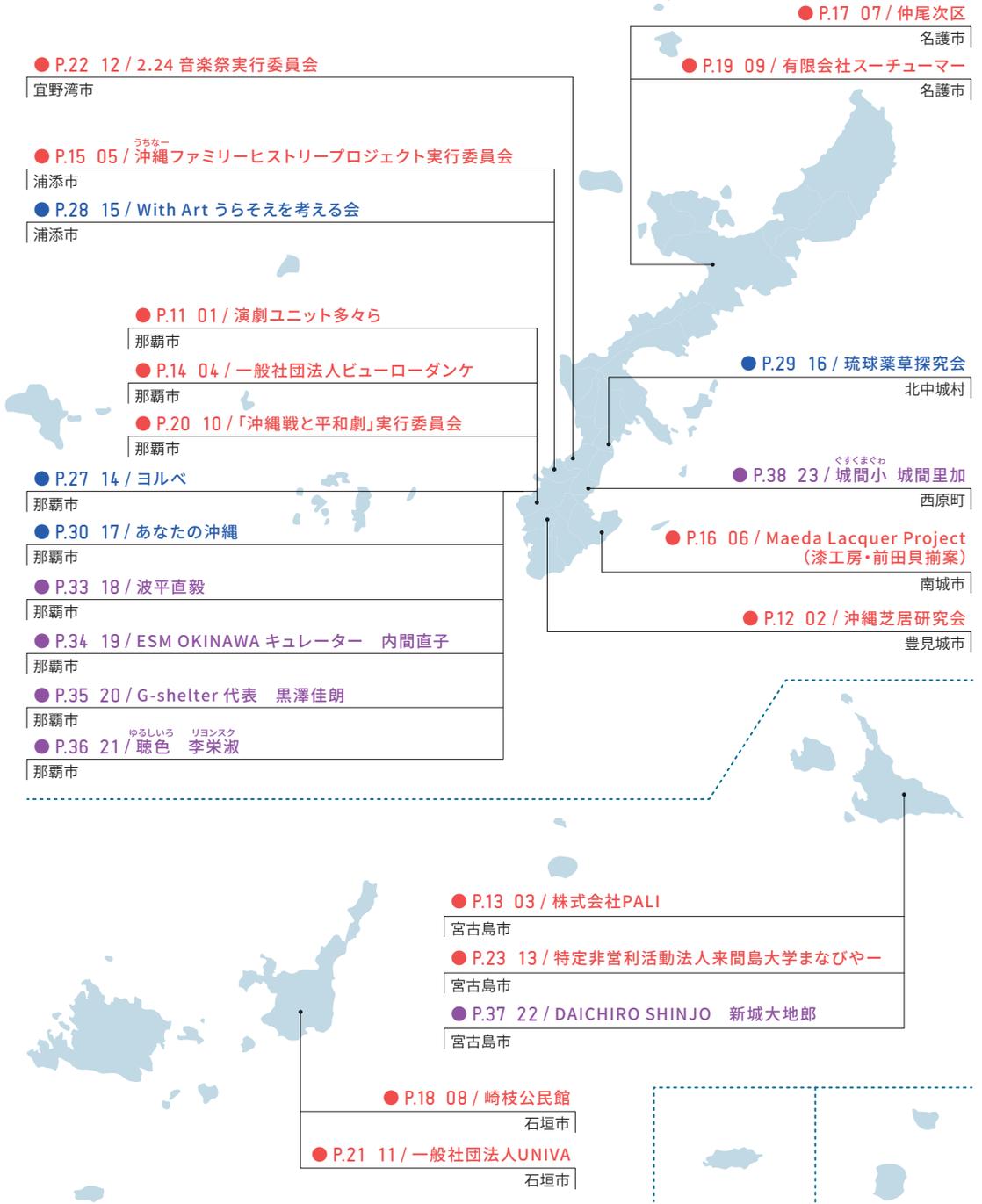
令和6年度スケジュール





令和6年度採択事業者の活動拠点

- 団体
- スタートアップ
- 個人事業主



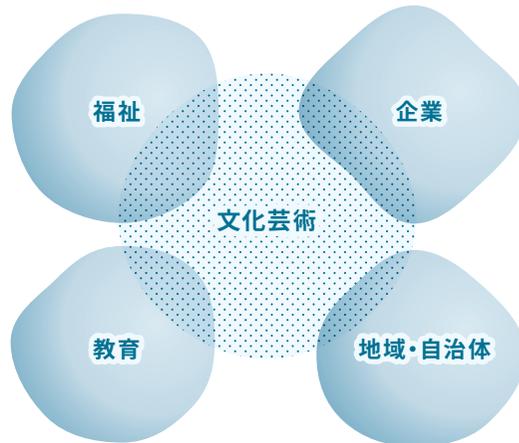


採択事業者の活動と他分野とのつながり

領域横断的な取り組みが、新たな出会いや可能性をひらく。

本事例集では、2024年度に採択・支援した23事業の取り組みを紹介します。採択事業者の活動分野や取り組みは多岐にわたり、文化芸術にとどまらず、例えば教育や社会福祉、国際交流、観光など、他領域が持つ課題や可能性に着目し、連携することで、新たな出会いや気づきが生まれています。

各事業者の紹介ページでは、活動内容をアイコンで表現し、活動や役割の多様性を可視化することを試みました。本事例集を通じて、皆さまの活動との重なりや親和性のある要素が見つかることを期待しています。



活動分野



取り組み



etc...



各事業者の紹介ページでは、活動分野と取り組みがアイコンで表記されています。

OKINAWA ARTS COUNCIL

2024 > 2025

令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業

支援事業のご紹介

団体

- P.11 01 / 演劇ユニット多々ら
- P.12 02 / 沖縄芝居研究会
- P.13 03 / 株式会社PALI
- P.14 04 / 一般社団法人ビューローダンケ
- P.15 05 / ^{うちなー}沖縄ファミリーヒストリープロジェクト実行委員会
- P.16 06 / Maeda Lacquer Project (漆工房・前田貝揃案)
- P.17 07 / 仲尾次区
- P.18 08 / 崎枝公民館
- P.19 09 / 有限会社スーチューマー
- P.20 10 / 「沖縄戦と平和劇」実行委員会
- P.21 11 / 一般社団法人UNIVA
- P.22 12 / 2.24 音楽祭実行委員会
- P.23 13 / 特定非営利活動法人来間島大学まなびやー





CASE 01



次世代と考える身体的・心理的に安心できる 創作環境の提案と実施

演劇ユニット多々ら

<https://tatayorimichi.wixsite.com/yorimichi/>

事業概要

沖縄県内の高校生との作品づくりをとおして、安全な創作環境とは何かを考え、身体的・心理的に安心できる創作環境を提案し、実施した。外部講師によるワークショップとハラスメント講習会の実施や、リサーチをもとにした舞台の制作・発表のほか、活動の認知度向上のためのドキュメンタリー映像の制作に取り組んだ。



上) 舞台作品の発表の様子
下) 「演リアルと違和感を考えてみる」ワークショップの様子

取組概要

- ① 高校生と一緒に考える演劇ワークショップ
「読戯曲の誤読を考えてみる」
日 程：8月31日
講 師：兼島拓也(脚本家)
会 場：アトリエ銘苅ベース
「演リアルと違和感を考えてみる」
日 程：9月7日
講 師：新井章仁(脚本家・演出家)
会 場：那覇市立 森の家みんな
② 高校生向けハラスメント防止講習会
日 程：9月1日
講 師：植松侑子
(舞台芸術制作者・上級ハラスメント対策アドバイザー)
会 場：アトリエ銘苅ベース
③ リサーチに基づく舞台作品の制作と発表
寄りみち公演 lv.7「青春ストリーム」
日 程：2月1日・2日
会 場：てんぶず那覇てんぶずホール
④ ドキュメンタリー映像撮影
制 作：福地リコ、中谷駿吾

POコメント

寄りみち公演とは、沖縄県内の高校生と共に演劇を創る企画です。10代の若者たちが直面するさまざまな“選択”をテーマに、プロのスタッフとの創作体験を提供しています。代表の新垣さんをはじめとするメンバーは、演劇業界の実態に向き合い、自身の経験を活かして創作環

境を構築してきました。相談窓口の設営や対応フローチャートの作成など、徹底した対策を講じて安全な稽古場づくりに取り組んでいます。安心できる環境があるからこそ、純粋に「演劇」と向き合うことができるのだと、改めて感じさせてくれる事業です。(喜舎場)

演劇

ハラスメント
対策

創作環境の
構築



#CASE 02



沖縄芝居における大道具製作の技能伝承

沖縄芝居研究会

<https://www.facebook.com/okinawashibaikenkyukai/>

事業概要

継承の危機にある沖縄芝居の大道具（舞台セット）製作者養成に向けた環境づくりをめざし、第一人者である新城喜一氏・榮徳氏兄弟の技能伝承に取り組んだ。指導風景の撮影・記録をするほか、スキャンデータによる大道具帳原画の保存、背景幕の写真撮影を行い、それぞれ冊子にまとめ発行した。



上) 撮影のため、背景幕を吊るす準備をする役者とスタッフ
下) 新城喜一氏より、沖縄芝居研究会専属の大道具製作者が技術指導を受ける様子

取組概要

①大道具製作の指導および指導風景の撮影

日程：8月4日、9月24日・29日、10月10日、
11月24日（公開）、12月22日

講師：新城喜一

製作者：伊良波輝人、玉城智子

会場：那覇市立若狭公民館ホール、同第1研修室、
同第2研修室

②新城喜一氏大道具帳原画集の作成

③新城榮徳氏所有の背景幕写真集の作成

撮影日程：8月1日・19日・27日・29日、
9月2日・3日・4日・19日

撮影会場：アイムユニバース てだこ大ホール

POコメント

明治期に誕生した沖縄芝居に欠かせないのが大道具（舞台セット）。戦後の劇場の大規模化に伴い、独自の色合いとかたちで確立されてきた。その半世紀以上を担ってきたのが新城喜一・榮徳兄弟。県内には沖縄芝居専用の劇場が存在せず、大がかりな舞台セットの製作・保管のほぼ全て

を新城兄弟が行っており、その継承が大きな課題として続いていく。沖縄芝居研究会は役者の育成のみならず、大道具の存続危機にも一手を投じている。この事業をきっかけに、沖縄芝居界のみならず、沖縄県を挙げて、この課題に向き合ってくださいことを願っています。（具志）



CASE 03



島に根付く文化芸術の継承に向けた アートワークショップ事業

株式会社 PALI

<https://www.paligallery.com/>

事業概要

宮古島内外のアーティストや有識者を招き、アーティスト・イン・レジデンスや展覧会、島の文化芸術をめぐる対話の場など、地域文化や多様な価値観を体感・体験する機会を創出。宮古島で培われてきた文化芸術に触れる多角的な切り口でのプログラムを展開することで、市民とアートとの多様な関わりをつくることをめざした。



上)「大地からの / Oiaala Oiaala」ワークショップの様子
下)「ミヤコとアイヌの交わり」刺繍ワークショップの様子

取組概要

- ①くらしの中にある文化芸術の発掘 | アーティスト・イン・レジデンス & 展覧会
展覧会「大地からの / Oiaala Oiaala」
日 程：8月4日～9月1日 アーティスト：Ryu Ika 会 場：PALI GALLERY
〈関連イベント〉
8月4日 アーティストトーク、ワークショップ
登壇者／講 師：Ryu Ika、大城壮平(編集者)
8月11日 アーティストトーク
登壇者：Ryu Ika、石川直樹(写真家)、新城大地郎(アーティスト)
ワークショップ 講 師：Ryu Ika
- ②交流から未来を紡ぐ | 展覧会 & ワークショップ
展覧会「ミヤコとアイヌの交わり」
日 程：12月9日～15日 会 場：PALI GALLERY
〈関連イベント〉
12月9日 第1部「木彫ワークショップ」 講 師：床州生
第2部「刺繍ワークショップ」 講 師：床みどり
第3部「言葉のワークショップ」 講 師：下倉絵美、與那城美和
トークイベント 登壇者：新城大地郎、坂本大輔、床州生、床みどり、
下倉絵美、萬矢叶子、竹内玲
- ③文化芸術の今と未来 | 展覧会 & トーク
展覧会「宮古の織と琉球の藍 - しまのいろをおる -」
日 程：2月22日～28日 会 場：PALI GALLERY
〈関連イベント〉
2月23日 藍染めワークショップ 講 師：嘉数義成(琉球藍研究所)
トーク「藍の世界を知ろう」
登壇者：嘉数義成、砂川美恵子(宮古上布保持団体 理事)
ファシリテーター：萬矢叶子(琉球 COLLECTION 叶)
2月26日 トーク「織を通して島を語る」
登壇者：新里玲子(宮古上布保持団体 代表)、
中島三枝子(染織デザイン mieko)、岩本大輔(岩本夫妻手工業)
ファシリテーター：萬矢叶子

POコメント

宮古島のことで「畑」を意味する「パリ(PALI)」。宮古文化を耕す場をめざすPALI GALLERYを拠点に、海外作家の滞在制作やアイヌ文化との交流、宮古の織の変遷と未来を考える場とおして、島を起点にした新たな表現と出会い、培われてきた文化芸術と出会い直す契機となっ

た1年でした。開発によって風景と暮らしが急速に変化し続けているこの島では、島の文化を知る入口をつくり、伝えることの切実さが増していくように思います。新たな表現や試みを重ねた先に、多様な間いや価値観が芽吹いていくことを期待しています。(上地)

芸術

地域

体験



#04 CASE



クラシックでしまくとぅばワークショップ事業

一般社団法人ビューローダンケ

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100084214595934>

事業概要

「沖縄らしいクラシック音楽の語り口」を探求する本事業。ワークショップの実施のほか、その内容を言語化し多くの人と共有するためのフォーラムの開催やパンフレットの制作、受講者の声のアーカイブ化に取り組んだ。教育機関との連携を探りながら、実演家が自らの演奏や表現に活かせるような気づきの場を継続的に生み出すための事業展開をめざした。



上) ワークショップの様子
下) 振り返りフォーラムの様子

取組概要

①ワークショップ開催

#01「言葉と音楽の関係／クラシック音楽における地域性・ウィーンスタイル」

日程：8月3日・4日

講師：瀬山智博(指揮者)、
三ツ瀧潤司(作曲家・新国立劇場オペラ研修所所属コレペティートル)、
安井陽子(オペラ歌手・クラゲンフルト州立歌劇場等客演)

オブザーバー：榎本空(文化人類学研究者)

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

#02「クラシック音楽における地域性・ウィーンスタイル」

日程：8月26日

講師：榎本麻衣子、Wolfgang Schuchbauer、Paul Rabeck、Erik Umenhoffer、
吉村涼(以上ウィーン交響楽団)、
Emilio Yepes=Martinez(ミュンヘン・フィルハーモニー)、
Gerhard Peyrer(フルート奏者)、
Andreas Nell(ウィーン式オーボエ奏者)、
三ツ瀧潤司、浜田理恵(オペラ歌手・新国立劇場オペラ研修所講師)

オブザーバー：榎本空

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

②振り返りフォーラム

日程：11月17日

登壇者：三ツ瀧潤司、浜田理恵、
石田麻子(昭和音楽大学教授、同大オペラ研究所所長)、
岡田光樹(沖縄県立芸術大学教授)、宮城茂雄(琉球舞踊家)、榎本空
ファシリテーター：石垣綾音(株式会社さびら)
グラフィックレコーディング：狩俣日姫(株式会社さびら)
会場：沖縄科学技術大学院大学 OIST
カンファレンス・センター・ミーティングルーム1

③事業広報活動

POコメント

第一線で活躍する音楽家、琉球芸能実演家、文化人類学者、大学教員など、多岐にわたる専門家たちによって紡がれたことは、参加者自身が表現について自問しながら、音に耳を傾け、ともに楽曲の世界を立ち上げていく時間。こうした実践の積み重ねが、問いを深め、一連の試みに厚みをもた

らしました。希望や問いを分かち合ったこと、立ち止まりながらもことばを交わした経験は、今後の音楽活動や表現を支える糧となることでしよう。一人ひとりの気づきが波紋のように広がり、沖縄から発信するクラシック音楽のうねりとなっていくことを心から願っています。(上地)



CASE
#05



うちなー 沖縄ファミリーヒストリープロジェクト

うちなー
沖縄ファミリーヒストリープロジェクト実行委員会
https://www.instagram.com/wyua_okinawa/

事業概要

沖縄から移民した世界のウチナンチュの歴史や文化、生活史的背景を学ぶ機会を創出することで、沖縄における文化の重要性を県内で啓発し、国際理解・異文化理解につなげることをめざした。ファミリーヒストリー（家族の歴史）を軸に、移民関係者へのヒアリングや、ワークショップの開発に取り組んだ。



上) ワークショップ参加者の様子
下) トークイベント ハワイ編の様子

取組概要

① 沖縄移民関係者への調査・オープンイベントの実施 「沖縄（うちなー）ファミリーヒストリー： 家族の歴史から紐解くうちなーの歴史」トークイベント

<ハワイ編>

日 程：8月25日

ゲストスピーカー：眞榮里サマンサ

会 場：宿&喫茶アグリメージュ

<鶴見編>

日 程：10月12日

ゲストスピーカー：並里典仁

会 場：ゆかるひホール

<ブラジル編>

日 程：11月2日

ゲストスピーカー：松本カリナ沙登美

会 場：くすぬち平和文化館

② 教材・ワークショップの開発

③ プロトタイプ実施・改良

POコメント

沖縄独自の文化を継ぐ者に「神からの使命」といった表現を、数名のお年寄りがしていたことを思い出します。戦前戦後をとおして多くの県民が海を隔てますが、沖縄人の愛郷心は強く、その心は子孫までも受け継がれており、沖縄の地の神様が心を繋いでいるようにも思えます。

本事業において移民の先駆者らのファミリーヒストリーを探り、その歴史や思いが教材化されるといったことは、沖縄の地に潜む新たな魅力が発見されると同時に、国際理解、異文化理解に寄与するものだと誇らしく思います。（具志）

歴史

継承

アイデン
ティティ



CASE
06



琉球漆器螺鈿伝統技術を若者へ広げるための「Gateway作品」試作事業

Maeda Lacquer Project (漆工房・前田貝揃案)
<https://www.instagram.com/maedalacquerproject/>

事業概要

螺鈿をはじめとする琉球漆器の伝統技術を継承し、現代の生活様式や価値観、美意識、ニーズに対応する新たな琉球漆器のあり方を提案。他業種との連携や新技術の開発、デジタル技術の導入に取り組むなど「Gateway(入口)作品」を製作。アーティスト同士の分野を越えた交流の場を創出し、次世代へと引き継ぎ、琉球漆器の発展をめざした。



上) 展覧会「GATEWAY」会場風景
 下) 革屋に革の仕入れに訪れている様子

取組概要

- ① 琉球漆螺鈿アダプターの試作
 アダプター(レコード固定器)の試作品開発、モニタリング。
 連携先: 波の上 MUSIC & BARBER
 DJ 4 号棟(AKAZUCHI赤土)
- ② 琉球漆螺鈿のアパレル試作
 革製品への漆着色実験。螺鈿模様のデザイン展開検討。
 連携先: Joint Clothing Store
 Leather Life growth
- ③ 琉球漆螺鈿の内装・サイン(看板)試作
 ガラスへの漆着色実験。
 木工家具・店舗内装の試作品開発、モニタリング。
 連携先: DRAWERS BRUSH ART WORKS
 Backbone The wood craft
- ④ 事業報告展覧会
 「GATEWAY - THE FINENESS OF RYUKYU-」
 日 程: 12月10日~15日
 <アーティストトーク>日程: 12月14日・15日
 会 場: 沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー2・3

POコメント

琉球王朝文化を代表する漆工芸は、近年、その衰退が懸念されています。この事業は、新たな手法を模索することで、若者世代が漆の魅力に触れる「Gateway(入口)」となることを目指して取り組まれました。沖縄のアイデンティティやルーツをテーマにしたストリートカルチャー

とは相性が良く、漆の持つ魅力と彼らのテーマが見事に融合し、魅力的な作品が生まれています。また、実験を繰り返すことで、従来の漆とは異なる表現が見いだされ、今後の作品への期待が高まっています。私もすでに、この入口に足を踏み入れました。(喜舎場)





#CASE 07



仲尾次豊年踊り次世代継承のためのWeb発信事業

仲尾次区

<https://nakaoshi-houenodori.com/>

事業概要

130年以上の歴史を誇る名護市仲尾次の豊年踊りを次世代へ継承するための第一歩として、若い世代に向けたWeb発信に取り組んだ。豊年踊りの歴史や演目の解説などを体系的にまとめたウェブサイトの立ち上げとショート動画の発信を行ったほか、歌や台詞の和訳と映像への字幕付与によって、より深い理解へとつなげる方法を模索した。



上) オランウータンに扮した男性の踊り「猩猩」
下) YouTubeで公開された「平和踊り」(和訳付き)動画

POコメント

「仲尾次」と言えば「豊年踊り」と言われるほど、仲尾次区の方々は130年以上に渡り、旧暦9月9日に行う豊年踊りを大事に育んできました。五穀豊穡・無海息災・航海安全・世界平和などを祈願する思いを歌と踊りに乗せるといった、古き良き共同体の絆を現代に伝える一方、価

取組概要

①豊年踊りWebサイト制作

仲尾次豊年踊りの知名度向上並びに来場者数アップのため、豊年踊りの各演目の紹介や歴史など、その魅力を体系的にまとめてWebサイトで発信。

②豊年踊りの魅力を伝えるSNSショート動画発信

豊年踊りの各演目の紹介や歴史など、その魅力をショート動画にまとめてInstagram、TikTokにて発信。

③各演目の歌と台詞の和訳、映像への字幕付与

仲尾次豊年踊りに関心を持ってもらった方に、より理解を深めてもらうことを目的に、豊年踊りの映像に演目の歌と台詞の和訳の字幕を付与し、YouTubeにて公開。

価値の多様化により継承に課題もさまざまですが、仲尾次区から巣立っていった方々が、この事業での成果(WEb発信等)をとおして、豊年踊りには帰ってくるのでしたら、文化芸術の価値を再認識できる。そう期待できる素晴らしい事業です。(具志)



CASE 08



崎枝地域の歴史を記録した本と写真を活用した 後世に継ぐための環境整備事業

崎枝公民館

<https://www.sakieda-tomatamatsu.com/>

事業概要

石垣島崎枝地域で自由移民としての入植がはじまってから75周年を迎えたことを受け、記念本『崎枝回顧録』と写真集『ふるさとの記憶』を発売。それらを活用して、崎枝地域の関係者や地元出身者の講演会・交流会を開催することで、移住者を含む地域住民が改めて崎枝地域のことを知り、後世についていくための環境づくりをめざした。



上)『交流会 モーヤー(舞い)』の様子
下)地域住民に配布、共有された冊子

取組概要

- ①記念本『崎枝回顧録』の作成・発行
戦後の入植時から今日までの崎枝のあゆみ、個人のエピソードを収集・掲載
- ②写真集『ふるさとの記憶』の作成・発行
崎枝に残された古い写真をデータ化した写真集を発行
- ③講演会・交流会「崎枝入植75周年を記念して」開催
日 程：9月29日
会 場：崎枝小中学校体育館

POコメント

異なる時代背景や動機で移住してきた人々が親睦を深めるにはどうすればよいか課題でした。崎枝小中学校が地域を結びつける橋渡しの役割を果たしたことが、このプロジェクトで重要だったと感じます。交流会では、生徒の質問に対する崎枝郷友会の先輩方の回答のなかで、

新移住者が驚きと笑いを起こすエピソードが披露されました。とても人間らしい光景でした。記念本には戦後から現在までの地域住民の回顧録がまとめられており、互いに会話をするきっかけとなる一冊となったのではないのでしょうか。(国永)



CASE
09



飲食店と学ぶ、沖縄・琉球の豚食文化

有限会社スーチューマー

https://www.instagram.com/amesoko_nesoko/

事業概要

沖縄の人々が古くから育んできた豚食文化。豚と密接に関わっていた伝統的な暮らしの知恵や風習、捨てる部位なく食すための調理・保存技術の継承をめざし、飲食店が担い手として学び、発信するための取り組みを展開。勉強会や地域への聞き取り調査、“わーくるし後の豚肉処理”の実践・記録を、地元住民や博物館等の教育機関を巻き込みながら実施した。



上)「わーくるし後の豚肉処理の追体験」の様子
下)「沖縄豚食紀行」宮古島での聞き取りの様子

取組概要

- ①琉球・沖縄の豚食文化勉強会
「みんなで学ぶウチナーウワー（沖縄の豚）」（全3回）
日程：8月25日、9月29日、10月27日
講師：島袋正敏、高田勝、石田雅芳
会場：名護博物館
- ②沖縄豚食紀行
〈宮古島〉日程：10月9日～12日
〈石垣島〉日程：11月24日～27日
〈与那国島〉日程：12月15日～17日
〈本島北部〉日程：1月27日
- ③わーくるし後の豚肉処理の追体験
日程：1月26日
会場：古民家（今帰仁村字天底）
指導：島袋正敏
協力：農業生産法人今帰仁アグー
- ④成果発表会「食べて学ぼう豚食文化」
日程：2月16日
会場：島豚七輪焼 満味
- ⑤成果報告ツールの制作
〈映像制作〉①～③の活動を記録。
成果発表会にて公開後、地域活動で活用。
〈すごろく制作〉飲食店関係者、北部地域の学校などに配布。

POコメント

今回の事業では、時代とともに厳格化された「衛生」と「文化の継承」の間に生じている障壁に直面しながら、現代における豚食文化の継承の在り方が模索されました。「わーくるし後の豚肉処理の追体験」には関係者の子どもたちも参加しました。豚の毛をバーナーで炙る処理や、

解体した豚肉の塩漬け作業を大人に交じって行う光景からは、かつて沖縄の家庭で自然と行われていた継承の姿が思い起こされました。伝統的な暮らしのなかで育まれた豚食文化を見つめ直すことは、現代に生きる私たちへさまざまな問いを投げかけてくれます。（橋口）



CASE
#10



「戦争体験の継承」平和劇ロングラン公演プロジェクト

「沖縄戦と平和劇」実行委員会

<https://heiwageki.okinawa/>

事業概要

戦争体験者の高齢化が進み、今後の平和学習のあり方が問われるなかで、一過性ではなく継続的な学習の機会を提供するため、3カ月にわたる「平和劇ロングラン公演」を開催。戦争体験者の証言をもとに創作し、出演者向けの勉強会をあわせて実施することで知識を深めながら、沖縄戦を語り継ぐ手法、または選択肢としての定着をめざした。



上) 本番の様子
下) 勉強会の様子(避難経路を辿るツアー)

POコメント

戦争証言を直接聞くことが難しくなった今、戦後世代がどのようにその証言を語り継いでいくかが課題となっています。代表の永田さんはこの課題に向き合い、演劇による継承に挑戦しています。演劇は、観る側の集中力と創造力が試され、個々の視点が反映された物語が、一人ひとり

取組概要

① 沖縄戦と平和劇ロングラン公演

期 間：10月～12月(全24公演)

会 場：沖縄県平和祈念資料館(平和祈念ホール／大会議室)

② Webサイト作成

チケット予約サービス、公演情報を集約したWebサイトの作成

③ 協業体制の構築

期 間：11月28日～12月2日

訪問先：JTB大阪教育事業部

JTB企画開発プロデュースセンター(東京)

NPO法人 Peace Culture Village(広島)

④ 出演者・スタッフに向けた勉強会

日 程：12月7日

行 程：アブチラガマ、ギーザバンタ、糸洲の塚、座談会

の心に刻まれます。舞台を通じた体験が自分ごととして戦争を語り継ぐ一助となるかもしれません。戦後80年を迎えるにあたり、永田さんは「平和学習を一時的なブームにしてはいけない」と語ります。平和学習を習慣化することが、このプロジェクトの最終目標です。(喜舎場)



「Uni-q(ゆにーく)」演劇プロジェクト vol.2 ～Uni-q きょーげん(狂言)～

一般社団法人 UNIVA

https://www.facebook.com/people/UNIVA/61550015046618/?locale=ja_JP

事業概要

福祉団体とアーティストが協働し、障がいを持つ参加者が、特性を活かした舞台表現に挑戦。狂言の要素を取り入れた舞台作品の創作・発表を行うほか、サポーター人材育成講座を実施。舞台芸術を軸に障がい福祉について知識を深める場となり、ケアする側、ケアされる側を超えた関係性をつくり、取り組んだ。



上)カーテンコール、リハーサルの様子
下)狂言の基礎(立ち方)を習う様子

POコメント

障がいの有無にかかわらず、身体表現を体験できる場を創出することをめざし、福祉事業所と舞台のプロが連携して取り組んでいます。参加者が演劇を通じて感情を表現し、普段とは違う活動をすることで、生活に潤いが生まれ、自信につながるのではないかという思いから始

取組概要

①障がい福祉×演劇ワークショップ

日程：9月27日～29日、10月24日～25日、
11月29日～12月1日、12月26日～27日

会場：石垣市民会館展示ホール、竹富町役場会議室

講師：吉田宇留、務川智正、河田全休、児玉泰地、深津尚未

②サポーター人材育成

日程：9月27日

講演会「障がいについて」講師：安里有希子

講演会「障がいと演劇」講師：務川智正

会場：石垣市民会館展示ホール

③成果発表

Uni-q(ゆにーく)演劇プロジェクト vol.2

～Uni-q きょーげん(狂言)～「てぶくろをかいに」

日程：12月28日

会場：石垣市民会館 中ホール

まりました。性別も年齢もさまざまな出演者が対等に意見を交わり、楽しそうに練習する姿は、まるで一つの劇団のようです。サポートする・されるの境界が曖昧になるこの関係性から、「ユニーク」な表現が生まれ、観客を楽しませています。(喜舎場)

演劇

福祉

多様性
理解



#CASE
12



沖縄・アジア平和音楽祭2025 ～文化交流を通じた国際共生を目指して～

2.24 音楽祭実行委員会

<https://www.224okinawa.org/>

事業概要

県内の観光・教育分野や国際交流機関、開催地の事業者らと協力し「沖縄・アジア平和音楽祭」を実施。沖縄の伝統音楽やポピュラー音楽を発信するとともに、東アジアのアーティストとの交流を通じて、沖縄からアジアの平和・共生のメッセージを伝えようとした。また、アーティストや参加者らと沖縄戦や基地問題等について学び合うスタディツアーを企画し、実施した。



上) 2.24音楽祭
下) 沖縄基地の現在を知るツアー

取組概要

①記者会見

日程：2月21日
会場：沖縄県庁記者クラブ(那覇市)

②沖縄基地の現在を知るツアー

日程：2月22日
会場：平和祈念公園(糸満市)、嘉数高台(宜野湾市)、
佐喜真美術館(宜野湾市)、辺野古二見の浜(名護市)
ガイド：元山仁士郎(2.24音楽祭実行委員会代表)、
野添侑麻(株式会社さびら)

③2.24音楽祭2025

日程：2月23日、24日
会場：ミュージックタウン音市場(沖縄市)
出演：七尾旅人、ずっちゃん、古謝美佐子&佐原一哉、
松山猛withチャンチャコカンパニー、
ASA-CHANG エマーソン北村、アルカシルカ、
TOSH、むぎ(猫)、norké、Naz、ワンチャイコネクション、
Rude-α、ST-LOW、カクマクシャカ、邦びよ、GACHIMAF、
間玉龍(from北京)、Room307(from香港)、
everfor(from台北)、津田大介、モバイルプリンス、
照屋勇賢、YOH(ORANGE RANGE)、寺尾ブッタ、
せやろがいおじさん、宮良麻奈美、西由良、
東盛あいか、冒険家ゆたぼん、しょうたろう、りっき、
Yuuri、ななこ、玉城和磨、宮里香織、兼島拓也、
石垣克子、YOU(アルカシルカ)、小松寛、元山仁士郎

POコメント

キング牧師のかの演説があった同日、ミュージシャンからも人種や立場を超えて集い、その同じ演壇から歌を歌ったといいます。「音楽で平和を創り出せるか」という代表・元山仁士郎さんの問いは同時に「夢」かもしれません。しかしそれに呼応するように中国、台湾、香港を含む県内

外の多くのアーティスト、20名以上のトークゲスト、ときに観客もマイクを握り対話と国際交流を現実にしていきました。そこにはアートとアクティビズムの不可分な関係を改めて可視化し、戦争を機に始まったアーツカウンシル制度自体さえも問い直す力がありました。(小川)



CASE
#13



琉球弧の「みき」継承プロジェクト

特定非営利活動法人来間島大学まなびやー
<https://miki-narrative.com/>

事業概要

米や麦、粟などから作られる飲み物「みき」は沖縄県内および奄美群島で受け継がれ、地域の祭祀とも密接に関わってきた。本事業では「みき」の文化的・歴史的価値の継承・普及・発信に取り組んだ。教育・研究機関と連携し、サンプリング調査や聞き取り取材、意見交換を行い、その記録をホームページや小冊子、パネル展示をとおして発信した。



上) 神事の準備を取材の様子
 下) 琉球弧「みき」サミット展示の様子(糸満市いとま〜)

取組概要

- ①調査・取材活動
 調査地：奄美大島、加計呂麻島、伊良部島・佐良浜、来間島、多良間島、石垣島(白保・伊原間)、竹富島、沖縄市知花、恩納村前兼久、糸満市
- ②サンプリング調査
 製法過程の記録と完成したみきのサンプリング
- ③地域支援
 地域が主体となる「みき」継承の取り組み案策定プロジェクト
 日程：11月11日 会場：PALI GALLERY
- ④HPと小冊子による情報発信
 奄美群島との連携で「みき」発信プロジェクト
- ⑤「みき」の認知度をあげ普及させるための発信として、サミットを開催
 <奄美市>
 日程：10月7日～13日
 会場：奄美市アマホームPLAZA
 <糸満市>
 日程：11月1日～3日
 会場：糸満市いとま〜
 <宮古島市>
 日程：11月11日～15日
 会場：宮古島市役所
 <石垣市>
 日程：12月14日～15日
 会場：石垣市役所「石垣島やきもの祭り」会場内

POコメント

「作る五穀も満々万作、おれが残りは神酒をたうりとうり、歌たい舞うたい」。江戸幕府側が琉球士族の歌舞を記したものです。本プロジェクトの代表である砂川葉子さんは、神酒に由来する「みき」を製造販売する傍ら、先人たちの心とも言える「みきモノガタリ」を現在に伝えよう

と、このプロジェクトを展開しました。神事において神と民の心と、集落の絆を繋いだ「みき」のモノガタリは、昔と今、現在と未来をも繋ぐモノガタリとなる。そう思える取り組みでした。(具志)

シマの文化 語 や び ら

～活動をふりかえる～

3年目
団体

区分2・文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み

一般社団法人ビューローダンケ 渡久地 圭

事業名：クラシックでしまくとうばワークショップ事業

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A 沖縄でクラシック音楽の演奏活動や企画をする一人として、「なぜクラシック音楽を演奏するのか？」という根源的な問いを、沖縄の文化芸術に関わるさまざまな方々と共有し、考えたいと思っていました。沖縄には、連綿と受け継がれてきた伝統芸能がありますよね。沖縄の歴史や風土によって形成された音楽や舞踊には、ここで実演する確固たる必然性があります。では、クラシック音楽はどうか。沖縄にいる「私」が西洋で生まれたクラシック音楽を演奏するとき、作曲家の出自や作品が生まれた時代背景、その土地の文化をどのように捉え、自身の演奏技術と融合させて音楽に反映していけるか。それらを探求していくことで、沖縄のクラシック音楽を発信できるのではないかと考えていました。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A 尊敬する音楽家たちの問題意識と、私自身が関心を寄せていたことには、共通する「気づき」があるように感じていました。そのひとつが、音楽と言葉の関係です。クラシック音楽には、地域ごとに生じる「なまり」のようなものがあると思っています。このことを軸に、沖縄でクラシック音楽を実践する場を立ち上げることで、一人のアーティストとしての意識形成、実演に際する技術向上やそのための考え方の習得など、音楽に向き合う姿勢をブラッシュアップする試みができるのではないかと考えたからです。

Q 補助を受けることで、どのような取り組みが可能となりましたか？

A 3年間の支援を受けるなかで、計9回のワークショップを開催し、声楽や器楽の県内実演家のほか、県立芸大の学生も参加してくれました。ワークショップでは、クラシック音楽の中心地のひとつであるウィーンの音楽家をはじめ、第一線で活躍されている講師との演奏や、琉球芸能実演家の方々と古典音楽や技術継承について意見交換、言語学や文化人類学の観点での考察など、多様な立場の方々からの考えを出し合い、沖縄のクラシック音楽を実践することができました。

Q 支援を受けて助かったこと、良かったことはありますか？

A 参加者の音楽に対する考えや実感を言葉にして共有する機会をつくれたこと。多様なキャリアや幅広い年齢層の人が集い、互いの音に耳を傾けながら音の響きをつくったこと。こういった経験が新たな言葉や音を生み出していくと実感しました。以前は沖縄で一人で抱えていたことに少しずつ共通言語ができて、創作と対話をする場ができたと感じています。

Q これまでの取り組みを終えて、どのような成果が得られたと思いますか？

A 取り組みをレポートにまとめてくださった音楽家以外の視点から振り返ると、専門的分野で微細に試みや検討を繰り返し、解答の出ない取り組みを重ねる姿勢や芸術家としてのあり方が、専門の外の人々にも影響を与え、指標となるものであったと語られています。非常に専門的でありながら、ひらかれた場。そんな場をつくり共有できたことはかけがえのない成果だと感じています。また、この場から創作された作品があることも成果と言えると思います。講師を務めた三ツ石潤司さんの「かぎやで風 2.0 琉球伝統音楽をオーケストラと共存させる試み」は、ワークショップでのやり取りなしには生まれ得なかった作品です。多くの琉球伝統芸能実演家との交流や、沖縄の音楽家との交流をとおして、土地とそこに生きる人々に最大のリスペクトを持って創造された作品は、特に沖縄に生まれクラシックを選んだこの地の音楽家たちに、深い説得力で受け入れられました。自分たちの立ち位置から納得した発信をするための作品の創作。実際の公演での演奏では、さまざまな試みの上で自然に理解された音色が奏でられていたことに心が動かされました。

Q 今後の目標や展望をお教えください。

A 参加者それぞれに「自分自身の音をつくる」という意識が萌芽したことを確かに感じています。演奏する現場は変われど、その時々で「自分の音とはなにか」と問い続ける姿勢を獲得できたことが、何よりも大きな変化だと思います。この事業をとおして積み上げてきた関係性や経験を携えて、多くの音楽家とともに「沖縄らしい語り口」について探究し、活動を発展させていきたいです。



言葉と音楽の関係をオーケストラで考える



トークセッション-文化芸術と観光-



実演演習-宮廷文化と芸能・芸術-

シマの文化 語 や び ら

～活動をふりかえる～

個人

1年目
団体

区分3・文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の
促進等に寄与する取り組み

有限会社スーチューマー 満名匠吾、楠木千珠

事業名：飲食店と学ぶ、沖縄・琉球の豚食文化

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A 私たちは、2004年から名護市で豚の焼肉店を営んでいます。沖縄の食文化を語る上で、「豚」は欠かせない存在です。近年は養豚業と消費者の接点が希薄になり、「足跡以外残らない」、つまり豚を余すところなく活用すると言われてきた沖縄の豚食文化が失われつつあるように感じています。そこで、誰もが気軽に利用できる飲食店という場所の強みを活かしながら、豚食文化や豚との暮らしについて学ぶ機会をつくることに取り組もうと考えました。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A 沖縄県や県文化振興会の支援があることで、飲食店だけの力ではできないことに挑戦できると感じたからです。昨年度、運営メンバーの楠木は個人事業主として琉球菓子勉強会に取り組んだのですが、資金面の補助に加えて、食文化以外にも音楽や映像など他分野の採択事業者の方々と出会うことができました。活動分野は異なっても、沖縄の文化を深掘しようとする姿勢に共感しましたし、アプローチの手法にも刺激を受けました。そういった方々と出会い、意見交換ができることで、新たな可能性をひらけるのではないかと感じたのが大きな動機です。

Q 補助を受けることで、
どのような取り組みが可能となりましたか？

A 支援を受けることで、地域の教育関係者の方々との連携が深まり、情報発信力も強化されたと感じています。正直なところ、儲けにならないことは飲食店だけではしづらいですが、公的な文化芸術支援が入ることで、宮古や石垣、与那国といった島々での丁寧な聞き取り調査や勉強会開催など、沖縄の暮らしが育んできた大切な文化を記録し、多くの方々と共有することができました。

Q 支援を受けて助かったこと、
良かったことはありますか？

A 今年度は、主に3つの取り組みを行いました。まず、ゲストを招いての勉強会には延べ約200名の方々にご参加いただき、「豚を知ると、沖縄が見えてくる」というコンセプトへの興味や関心の高さを実感することができました。かつて旧正月に行っていた「わーくるし」を追体験する取り組みでは、現代の衛生基準による「自家用とさつ」のハードルの高さが明らかになったと同時に、先人たちが培ってきた文化をどのように継承していけるのかを考える契機となりました。豚との暮らしについて聞き取り調査を行う「豚食紀行」では、取材した方々の語りから島々の歴史や環境による豚料理の多様性を知ることができ、それを地域の方々と飲食関係者と共有できたことで、沖縄の豊かな豚食文化を伝えていく飲食店の役割を共通認識として持つことができました。

Q これまでの取り組みを終えて、
どのような成果が得られたと思いますか？

A 一連の取り組みをとおして、豚との暮らしと沖縄の食文化の深いつながりや、豚肉をさまざまな形で活用する知恵など、多くの人に伝えるべき貴重な学びを得ることができました。また、「豚食紀行」と「わーくるし」に関する記録映像、豚との暮らしを遊んで学べるすごろくなど、教育現場や地域イベントで活用できるコンテンツを開発することができました。これらの学びを広く共有するための第一歩を踏み出したことが、この事業の大きな成果だと感じています。

Q 今後の目標や展望をお教えてください。

A 沖縄の食文化に「豚」は欠かせないと言われている一方で、どれほどの人が、豚の大きさや飼育方法、豚肉になる過程、調理法を知っているのでしょうか。だからこそ私たちは「足跡以外“残さない”」という姿勢をもって、現代の生活に豚食文化を落とし込むための活動を推進していきたいと考えています。例えば、豚の解体を地域住民と共同で行う恒例行事として続けていくこと。伝統的な共同作業をとおして世代を超えた交流を促進することが、地域コミュニティの強化、相互扶助の精神の継承にもつながると信じています。



古民家の縁側に座る満名氏・楠木氏



豚解体時に食べられる食事



勉強会後の参加者談笑の様子

OKINAWA ARTS COUNCIL

2024 > 2025

令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業

支援事業のご紹介

スタートアップ

P.27 14 / ヨルベ

P.28 15 / With Art うらそえを考える会

P.29 16 / 琉球葉草探究会

P.30 17 / あなたの沖縄





#CASE 14



アーティストの労働環境を整えるための実践講座

ヨルベ

<https://yorubeokinawa.myportfolio.com>

事業概要

沖縄県のアートワーカーが置かれている環境の改善をめざし、契約に対する認識不足やハラスメント問題など、業界が抱える課題に向き合うための連続的な講座・ワークショップを開催。また、参加者への個別インタビューをアーカイブとしてまとめることで、一人一人の行動変容を促し、社会の意識変革に向けた取り組みを展開した。



上)④トークイベントの様子
下)①契約講座+ワークショップの様子

取組概要

- ①アートワーカーのための契約講座+ワークショップ
日 程：9月28日
講 師：田島佑規(弁護士)
会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室
- ②トークイベント「#男性学から考える! 男たち、こんな時どうしてる? ~アート、映画、音楽、そしてファンダムについて~」
日 程：10月20日
登壇者：ヒラギノ游ゴ、平良竜次、モバイルプリンス
会 場：浮島ブルーイング
- ③無自覚に誰かを傷つけないようにするための人権講座
日 程：11月23日
講 師：国立大学法人琉球大学ヒューマンライツセンター
会 場：沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリースタジオ
- ④トークイベント
「アーティストに学ぶ芸術実践講座：個人的なことは政治的なこと」
日 程：12月21日
登壇者：長島有里枝(写真家)
会 場：Foto Space Reago
- ⑤アーカイブ作成
冊子発行・配布、PDFデータをwebサイトにて公開

POコメント

ヨルベはアーティストメンバーで構成された団体です。2023年に那覇文化芸術劇場なはーと共同企画した「アーティストの条件」では、トークイベントやアンケート調査を通じて業界全体の構造的問題が提起されました。アーティストが主体となって発信することは負担が大き

く、矢面に立たされる可能性があります。しかし、自ら問題意識を持ち、議論の場を設けることで、悩みや不安が浮き彫りになり、課題の共有につながりました。課題を明るみに出し、意識を向けることが、行動変容と改善をもたらす大切な一歩になると期待しています。(喜舎場)

ハラスメント
対策

創作環境の
構築

多様性
理解



CASE
#15



ステップアップ! With Art うらそえ

With Art うらそえを考える会

<https://www.facebook.com/share/1Dx4wimBjU/?mibextid=wwXlfr>

事業概要

浦添市内で「場」「モノ」「人」が横断的につながるアート活動を模索し、人々がアートを日常に取り入れるきっかけづくりや、さまざまな表現活動の拡充をめざした。野外（浦添グスク）でのアート活動、昨年に引き続き浦添市美術館でのアートマルシェと市内各所のArtスポットを結ぶ「春のArtフェア」を開催。市内・市外アーティストの2個展を浦添市美術館で実施した。また、地域におけるアート活動の先進地を視察し、事業拡大と地域創造につなげた。



上) 野外アートイベント「浦添グスクde アート散歩 2024～心動くあの場所へ～」の様子
下) 展覧会「叶秀樹展」アーティストトークの様子

POコメント

2年目となる本事業。取り組みを通じて生まれたアート活動は、昨年度よりさらに多様なものにステップアップしていました。今回つながりが生まれた場所は、浦添市内のアートスポットにとどまらず、浦添グスクという地域固有の歴史的な場所までさまざまでした。横断的な事

取組概要

- ①野外アートイベントの検討・開催
「浦添グスク With Art シェア会～浦添グスクでアートイベントやろうよ～」
日 程：8月31日
会 場：県営浦添大公園 南エントランス管理事務所多目的室
ゲストスピーカー：テイトウス・スプリ、内間直子、宮平未来、玉那覇清美
「浦添グスク de アート散歩 2024～心動くあの場所へ～」
日 程：11月3日 会 場：国指定史跡 浦添城跡
- ②アートマルシェ・アートフェア開催
「Art マルシェ 2024」
日 程：11月24日 会 場：浦添市美術館外ピロティ
「With Art うらそえ 春の Artフェア」
〈会場① 平敷兼七 Gallery〉 日 程：2月8日・9日
〈会場② Gallery Salon MARUYOU〉 日 程：2月15日・16日
〈会場③ アグレアール〉 日 程：2月22日・23日
〈会場④ 浦添市美術館&周辺パブリックアートツアー〉
日 程：2月24日 ガイド：金城聡子
〈会場⑤ ライブハウス groove〉 日 程：2月27日、28日
- ③浦添市内外アーティストの個展開催
「大山健治個展『Film of Light 光の膜』」
日 程：11月9日～17日 会 場：浦添市美術館 企画展示室3
〈アーティストトーク〉 日 程：11月16日 会 場：展示室内
「叶秀樹展」
日 程：1月22日～26日
会 場：浦添市美術館 企画展示室1
〈アーティストトーク〉 日 程：1月25日 会 場：展示室内
- ④パブリックアートと芸術祭・地域活動の先進地視察
日 程：7月23日～26日
視察地：香川県小豆島町・土庄町、京都府京都市

業展開は、アート作品とのより多面的で印象深い出会いに結びついていました。多彩でエネルギッシュな取り組みの数々は、「アートを楽しむ」という揺るぎない想いが軸になっていると強く感じました。今後の取り組みにも目が離せません。(橋口)



CASE
#16



「琉球の薬草を楽しむ暮らし」推進事業

琉球薬草探究会

<https://www.instagram.com/ryukyu.yakuso2023/>

事業概要

祭祀や旧暦行事と密接に関わり、沖縄の家庭や地域で伝承されてきた薬草文化。県民の認識度のリサーチ調査を踏まえ、有識者へのヒアリングをとおして、琉球薬草の歴史や伝統的価値の解明を試みた。収集した情報はSNSやシンポジウムで発信し、薬草を身近に楽しみながら暮らしに取り入れる方法を伝えるための場づくりと、コミュニティの形成に取り組んだ。



上) フィールドワークの様子
下) 有識者(鳥袋正敏氏)からヒアリングする様子

取組概要

①旧暦行事や薬草文化等についての県民意識のリサーチ調査

②植物に関わる有識者からのヒアリング

対象者：饒平名千明、新里孝和、前田知里、鳥袋正敏、
名嘉初美、高石タマ子、佐藤寛之、佐久眞カツエ

③自生している薬草のフィールドワーク

日 程：11月21日
会 場：あやかりの杜
講 師：佐藤寛之

④石垣島・久米島の現地調査

薬草が暮らしにどのように根付いているか薬用・民具・祭祀なども含めて、琉球王朝時代からの関わりについて現地調査を実施。

⑤「琉球の薬草を楽しむ暮らし」シンポジウム

日 程：2月9日
会 場：あやかりの杜 多目的ホール

POコメント

琉球薬草探究会は、「沖縄の薬草文化を継承するためにはどうすればよいか」という問いから始まりました。久米島で祭祀に使用される植物を調査するなかで、神役の血筋を引く最後のノロとの出会いがありました。ノロが記憶していた薬草の自生地は道路となり、植物に覆われた

御嶽は開発の波際にありました。この出来事は、薬草を身近に感じる生活について改めて考えさせられるものでした。シンポジウムでは、「実践的な使い方を伝える」ことが文化の継承において重要であるとの意見も出され、次なる探究へのきっかけとなりそうです。(国永)



#CASE 17



個人的な体験から沖縄を表現する新たな言葉を 獲得するための市民活動

あなたの沖縄

https://note.com/your_okinawa

事業概要

個人的な体験から“沖縄”を語るコラムの執筆活動のなかで
見えてきた、さまざまな社会的背景により、沖縄について
積極的に語る若者が少ないという課題の解決をめざした。
言葉の多様性を広げるため、沖縄を表現するアーティスト
を講師に招いたワークショップの実施のほか、さらなる活
動の拡充に向けてトークイベントの開催に取り組んだ。



上)ワークショップ「写真で切り取る言葉」
下)ワークショップ「他者の記録から紡ぐ言葉」

取組概要

①ワークショップの実施

「私も知らない自分の言葉～アーティストと表現をつくるワークショップ～」

日 程：10月12日、11月10日、12月21日

第1回目「写真で切り取る言葉」 講 師：上原沙也加(写真家)

第2回目「宛先を決めて書く言葉」 講 師：兼島拓也(劇作家)

第3回目「他者の記憶から紡ぐ言葉」 講 師：瀬尾夏美(画家、作家)

会 場：若狭公民館(那覇市)

「もやもやを手紙に書く」

日 程：2月9日

講 師：西由良、タイラ

会 場：未来創造センター(宮古島市)

②トークイベントの開催

「90年代生まれが語る沖縄お笑い「沖縄って面白い！」」

日 程：9月7日

出 演：首里のすけ(しんとすけ)、山城皆人(ニライカナイ)、薪子(梵天)

司 会：安里和哲(フリーライター)

会 場：Bookcafe&Hallゆかるひ

「ZINE『あなたの沖縄 vol.1&2』刊行記念トークイベント」

日 程：9月8日

出 演：西由良(『あなたの沖縄』編集者)、真栄城潤一(ライター)

会 場：ジューク堂書店那覇店

「沖縄戦を言葉にする～体験してない私たちが受け継ぐために」

日 程：2月22日

出 演：狩俣日姫(平和教育ファシリテーター)、

永井玲衣(作家)、西由良(司会、あなたの沖縄代表)

会 場：対馬丸記念館

POコメント

写真家や劇作家らとのワークショップでは、アート関係者だけでなく
多様な職業、出身地、世代の人が集いました。フォロワー数や再生数な
ど数の論議が声の「大きさ」を決めてしまうような社会で、個人的な体
験を語る困難さを共有し、一人ひとりの話に皆で耳を澄ます、その優

しい空間をかるやかにファシリテーションする代表・西由良さんの姿
が印象的でした。それは“The Personal is Political”というかつての
市民運動のスローガンをも想起させ、大きな主語では取りこぼされて
いた「沖縄」から新たな言論文化が生まれようとしています。(小川)

シマの文化 語 や び ら

～活動をふりかえる～

1年目
スタート
アップ

2年目
団体

区分3・文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の
促進等に寄与する取り組み

一般社団法人UNIVA 井上礼子

事業名：「Uni-q(ゆにーく)」演劇プロジェクト vol.2～Uni-q きょーげん(狂言)～

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A 石垣市内の障がい者就労支援事業所のなかには、地域の素材を生かした工芸品作りを行う事業所があります。しかし、これらの工芸品は芸術的価値の高いアート作品としてではなく、あくまでも事業所の商品として販売されています。そのため、障がいのある人が作家として自由な作品を創作し、それを販売できる環境は整っていません。本州では関心や認知度の高まっている障がい者アート活動は、石垣ではそこまでの関心度はなく、舞台芸術についてはさらに関心度が低いです。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A 先ほどの課題と重なりますが、関心度が低いため、障がいのある人が参加できるような舞台芸術活動の場が不足しています。特別支援学校等を卒業後、就労支援事業所や就業場所と自宅やグループホームとの往復という生活を送っています。事業所やグループホーム以外の場所で多様な人と出会い、安心安全な場で自由に表現を楽しみ、一つの目標に向かって何かを共に創り上げる経験を通じて、新たな自己の発見や、成功体験を積み重ねる機会を増やしたいと思い、申請しました。

Q 補助を受けることで、
どのような取り組みが可能となりましたか？

A 石垣には障がいについて理解があり、演劇を指導できる人材が不足しているため(または、学ぶ場がないため)、島外から経験豊かな講師・スタッフを招き、充実した内容のワークショップ・発表公演を実施することができました。

Q 支援を受けて助かったこと、
良かったことはありますか？

A 新聞折り込み等での広報の充実が図れたことで、市民の方々に活動を周知することができました。また、4か月間、毎月関西から講師を招くことができました。さらに、POの方々が親身になって相談に乗ってくださり、自分たちだけでは思いつかないような発想をご提案いただいたり、困ったことや分からないことがあればすぐに連絡できたりと、支えてくださっている安心感をもって活動を進めることができました。加えて、設備の整った劇場をお借りして発表公演を行うことができました。そして、参加者の皆さんが潜在的に持っている能力を発揮した場面に立ち会うことができました。

Q これまでの取り組みを終えて、
どのような成果が得られたと思いますか？

A ダイバーシティやインクルージョンという考え方が広まりつつありますが、石垣ではそうした考え方を考慮した舞台芸術活動がこれまで行われていませんでした。障がいのある人と障がいのない人が分断することなく、ひとりひとりの個性や価値観を尊重し、自然にコミュニケーションを取ることができる関係性を築きました。そして、共通の目標である舞台作品の創作に向けて取り組むことで、ダイバーシティやインクルージョンの考え方を実践する石垣初の事例となったのではないかと思います。



台本読み



本番(母狐と子狐)



本番前日の稽古にて(最終確認)

OKINAWA ARTS COUNCIL

2024 > 2025

令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業のご紹介

個人事業主

P.33 18 / 波平直毅

P.34 19 / ESM OKINAWA キュレーター 内間直子

P.35 20 / G-shelter 代表 黒澤佳朗

P.36 21 / ゆるしいろ 聴色 リ ヨンスタ 李栄淑

P.37 22 / DAICHIRO SHINJO 新城大地郎

P.38 23 / ぐすくまぐわ 城間小 城間里加





CASE
18



多良間島と沖縄本島を八月踊りの芸能で繋ぐことで人材育成を図る

波平直毅

https://www.instagram.com/kanamaru_shishi/

事業概要

多良間島の八月踊りの獅子舞を継承する「獅子座」のメンバーを招聘し、本島在住の「金丸獅子」のメンバーが技術・知識を学ぶ機会を創出。また、獅子舞や八月踊りの歴史に関する聞き取り調査を行ったほか、獅子頭の記録とレプリカの製作により現地メンバーとの演舞での共演を容易化し、長期的な交流の促進につなげた。



上) 多良間村塩川区の獅子座メンバーと「棒踊り」で共演
下) 多良間村塩川区の獅子頭のレプリカを製作

取組概要

- ①多良間島(八月踊り)での演舞指導
日程：8月26～30日
会場：大木公民館
- ②多良間島の獅子座メンバーによる沖縄本島での指導
日程：10月26～27日
会場：西原中央公民館、首里城公園
- ③多良間村字塩川の獅子頭のレプリカ製作調査
多良間村字塩川の獅子頭を採寸・記録。それを基にした仏師・獅子頭製作者の仲宗根正廣氏による技術指導。
- ④多良間島の獅子座メンバーと金丸獅子との共演
国指定重要無形民俗文化財「ヨーンシー」、
「棒踊り」、「獅子舞」を共に演舞
日程：11月24日
会場：希望ヶ丘公園
出演イベント：秋のサクラザカマルシェ

POコメント

無事に年貢を納めたことへの労いと、次期の五穀豊穡も願い、島中を挙げて行われる「多良間の八月踊り」。時代は変わっても、島に息づく歌と踊りは、海を越えて沖縄本島にも心とかがちが息づいています。波平直毅さんは多良間出身の父親が主宰し、八月踊りの演目を継承す

る「金丸獅子」で活動するなか、現地との連携を図ろうと本事業を展開しました。現地との新たなつながりも生まれ、心配される後継者不足や諸課題に、大いに貢献することが期待できる取り組みとなりました。(具志)

地域

芸能

継承



CASE
19



海外レジデンスプログラムを通して 共同企画を育み文化交流を促す

ESM OKINAWA キュレーター 内間直子

<https://www.esm-okinawa.com/>

事業概要

ポーランドのBWAヴロツワフ現代美術館とニューホライズン国際映画祭にレジデンス参加し、現地での調査やさまざまな機関との協働によるプロジェクトの開発を行った。帰国後には報告会や講座、ポートフォリオレビューといった県内従事者らとの共有・対話の場を設け、担い手の育成と継続した活動を育む環境づくりに取り組んだ。



上) BWAヴロツワフのスタッフ向けプレゼン終了後に記念撮影
下) ポートフォリオレビューの様子

POコメント

新たな世界を臆せず開拓する内間さんの姿勢と推進力に、個の力強さを実感させられます。ポーランド滞在から得た知見、現地で感じた文化芸術への熱量、レジデンスに関する情報共有、作品のコンセプトの伝え方や資料構成、講師陣の実践に基づく視点やチャンスをつくるための貪欲

取組概要

- ①ポーランド・ヴロツワフでのレジデンスプログラムへの参加
日程：7月11日～30日
連携先：BWAヴロツワフ現代美術館、
ニューホライズン国際映画祭 等
- ②レジデンス報告会
日程：9月8日
ゲスト：花岡美緒（アーティスト、Tokyo arts and Space
(TOKAS) レジデンスコーディネーター）
会場：ブンガボンガ
- ③アーツマネジメント講座&ポートフォリオレビュー
日程：10月13日
ゲスト：東松泰子（東松照明オフィス INTERFACE 代表）、
野村恵子（写真家）
会場：INTERFACE- Shomei Tomatsu Lab.
- ④アーティストプロフィール冊子/
英訳『OKINAWA BASE』の発行
掲載アーティスト：26組

な姿勢...それぞれの取り組みは、参加した方々へのエールとなり、次なる一手への後押しとなる時間となっていました。ここで生まれたご縁が、どのような創造的な連携へと発展していくのか。国境を越え、沖縄の文化芸術活動が広がっていくことに期待が膨らみます。（上地）



CASE
#20



メタバースを活用した、 沖縄の魅力及び県内アーティスト活動の発信

G-shelter 代表 黒澤佳明

<https://x.com/Gshelter>

事業概要

インターネット上の3次元仮想空間「メタバース」にバーチャルライブハウスを設置し、世界に向けて県内アーティストのライブ活動を発信するとともに、県外アーティストとの共演や交流の機会を創出。失われた沖縄の風景を仮想空間上に再現するなど新しい表現空間のあり方を模索し、メタバースならではの沖縄の魅力体験を実験的に提供した。



上)むぎ(猫)がメタバースにやってくる！にやー！にやー！にやー！
下)G-shelterメタバース発表会「ゼロ→ワン→テン」

取組概要

①琉球硬躰音符黒盤拳 in cluster

日 程：11月9日

出 演：GENDER-K、neu、Eliu*、OMKT

会 場：バーチャル G-shelter

(メタバースプラットフォーム「cluster」上)

②むぎ(猫)がメタバースにやってくる！にやー！にやー！にやー！

日 程：12月8日

出 演：むぎ(猫)

会 場：バーチャル首里劇場

(メタバースプラットフォーム「cluster」上)

③G-shelterメタバース発表会「ゼロ→ワン→テン」

日 程：12月29日

出 演：mirayna、LuLu、OMKT、おきなわさん

会 場：バーチャル G-shelter

(メタバースプラットフォーム「cluster」上)

POコメント

沖縄で20年以上ライブハウスをはじめ表現の場づくりを展開してきたG-shelterの黒澤さんは、激動のコロナ禍にスタジオ経営や配信業に新たに着手し、ついにメタバースに場を拡張していきました。逆境でもとまらない挑戦と探究心は、レコードやラジオなどメディアが音楽そのもの

を変え、人々の音楽に触れる選択肢を豊かにしていった歴史を彷彿させます。累計1000人以上を動員したメタバースライブは例えば子どもや障がいをもった方でもネットから誰もがアバター(観客)になることができ、社会包摂の未来をも感じさせる実験となりました。(小川)

音楽

発信

交流



CASE 21



対話型アート鑑賞でつむぐ人とアートの可能性

ゆるしいろ リ ヨンスク
 聴色 李栄淑

<https://www.instagram.com/lee.y78/>

事業概要

対話型アート鑑賞法「アートマインドコーチング」を用いて、子どもの人間力開発や豊かなコミュニケーションの育成、親子や夫婦、外国人移住者・県外移住者と沖縄県民のそれぞれの関係性における対話の土台づくりのためのワークショップを実施。また、沖縄に所縁のあるアーティストの作品を鑑賞し、作品に内在する沖縄ならではの思想や思考、歴史、文化に触れる機会を創出した。



上) MACHIDA HAYATO氏の作品を鑑賞する様子
 下) ハゲラキッズクラブでの開催

取組概要

- ① 夫婦向け「もっと話して家庭も仕事も楽しもう! ○○家作戦会議!!」
 日 程：10月27日
 会 場：男女共同参画センターていえる
- ② 子どもの人間力開発と、豊かなコミュニケーションの土台を作るプロジェクト
 会 場：アカンミキッズクラブ、ハゲラキッズクラブ(全7回) 若狭公民館
- ③ 豊かな多文化共生社会を目指す地域のコミュニケーションプロジェクト
 会 場：若狭公民館
 対 象：県外・外国人移住者等
- ④ 県出身アーティストの作品を用いた対話型アート鑑賞「アートから沖縄の声を聴いて繋ぐプロジェクト」
 日 程：8月15日
 会 場：沖縄県立美術館
 作 品：美術館コレクション展
 対 象：若狭公民館アート部(中学生)
 日 程：11月12日、11月17日、11月28日
 会 場：ホテルアンテルーム那覇
 作 品：MACHIDA HAYATO氏の作品
 日 程：12月19日
 会 場：ハゲラキッズクラブ
 作 品：泉川のはな氏の作品
 日 程：12月24日
 会 場：アカンミキッズクラブ
 作 品：泉川のはな氏の作品
 日 程：12月27日
 会 場：南谷茶房
 作 品：泉川のはな氏の作品

POコメント

対話型アート鑑賞は、同じものを見てもそれぞれの捉え方に「正解も間違いもない」ことを受け入れるところから始まります。1枚の絵画の前にし、李さんの問いかけにそれぞれが感じたことを伝え合います。他者を否定せずに傾聴することで、自分の率直な見解を言語化する勇氣

が生まれ、受け入れてもらえる喜びや広がる想像力がその場に溢れました。「絵画の楽しみ方を初めて知った」という参加者の声や、自社研修に取り入れたいというオファーもあり、今後の広がりが期待されます。(国永)





CASE
#22



クロスマーク 宮古島の祭祀写真展一禅僧・岡本恵昭が撮った宮古

DAICHIRO SHINJO 新城大地郎
https://www.instagram.com/daichiro_/

事業概要

宮古島・祥雲寺の住職であり民俗学者の故 岡本恵昭氏がかつて撮影した、島の祭祀を記録した写真展のほか、有識者や集落の人々を交えたシンポジウムを開催した。岡本氏の写真を孫にあたる新城氏が芸術家の視点で解釈し「芸術表現」として公開することで、多様な人々が島の根源にある精神文化を知り、文化を再考する機会を創出した。



上) 展示会の様子
下) シンポジウムの様子

取組概要

- ① 展示会「CROSS MYAHK クロスマーク 岡本恵昭 / 新城大地郎作品展 スティル 宮古島の精神とこれから」の開催
日 程：11月22日～12月4日
会 場：PALI GALLERY
来場者数：500名
〈サテライト会場展示〉
日 程：11月18日～21日
会 場：宮古島市役所 ロビー
〈アーティストトーク〉
日 程：11月30日
ゲスト：石川直樹(写真家)
会 場：PALI GALLERY
参加人数：52名
- ② シンポジウム「地方学からのアートの民俗学的展開」の開催
日 程：11月22日
ゲスト：島村恭則(関西学院大学社会学部長)
モデレーター：辻村慶人(編集者)
会 場：PALI GALLERY
参加人数：46名

POコメント

故 岡本恵昭氏が1970～90年代に撮影した宮古島の祭祀行事の写真には、現在では多くが途絶えてしまった祈りの風景が映し出されています。各集落で大切にされてきた聖域や御嶽を無視した開発が進み、目まぐるしく変化を続ける宮古島の今に不安を抱えながら、世の中や自

己への問いかけのなかで作品制作を行う新城さん。祖父の残した写真をアートへと転回し表現した今回の展示会からは、島のかつての営みを見つめ直し、変化へ向き合うことの意義が感じられました。(橋口)

写真

地域

記録



CASE
#23



マイクラフトで沖縄の歴史的建造物と未来都市の融合を子どもたちと考える

ぐすくまぐすく

城間小 城間里加

<https://okinawaminecraft.hp.peraichi.com/>

事業概要

仮想空間での建築・まちづくりができるゲーム「Minecraft（マイクラフト）」を用いて、沖縄の歴史的建造物・首里城と未来都市を創作する子ども向けの講座と集大成としての大会を開催した。講座をとおした学びのなかで、子どもたちが首里城への関心を高め、まちづくりとの融合を自由に発想し、豊かな創造性を育む機会を創出した。



上) 講座の様子
下) 首里城見学の様子

POコメント

小学1年生から中学1年生まで34名が参加した今回の講座は、首里城見学や歴史ガイドによるレクチャーなど、沖縄の歴史的建造物への理解を深めるための時間を織り交ぜながら、個々が思い描く未来都市を自由に創造できる場づくりに取り組みました。子どもたちは講座以外の時間も Minecraft の

取組概要

① マイクラ×首里城 キッズプログラミング講座(全13回)

日程：8月4日、8月11日(首里城見学)、8月18日、8月25日、9月1日、9月8日、9月15日、9月22日、9月29日、10月6日、10月13日、10月20日、10月27日

会場：西原町さわふじマルシェ内 西原劇場会議室 ほか
講師：スズキタカマサ、伊波良和、安富祖仁、仲宗根基
首里城歴史ガイド：新屋美香
参加人数：34名

② こどもまちづくりプレゼン発表大会

日程：11月3日
会場：西原町さわふじマルシェ
審査員：久保山顕子(クラブハンズ沖縄)、
新川潤(沖縄県農業協同組合青壮年部)、
前田光智(西原町社会福祉協議会)、
スズキタカマサ、伊波良和、安富祖仁

チャット機能を駆使し、グループで協力しながらまちづくりに挑戦しました。インターネットやデジタル技術が当たり前身近にある世代の彼らが、琉球・沖縄の長い変遷を辿ってきた歴史的建造物と今後どのように向き合っていくのか、その可能性あふれる未来に期待が寄せられました。(橋口)

シマの文化 語 や び ら

～活動をふりかえる～

個人

区分1・文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み

波平直毅

事業名：多良間島と沖縄本島を八月踊りの芸能で繋ぐことで人材育成を図る

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A 沖縄県内外のイベント出演依頼が少しずつ増えてきて活動の範囲が広がりつつありましたが、出演メンバーが不足していました。獅子舞の主要メンバーが1人でも欠けると出演できないという状況でした。新しいメンバーを増やすために知り合いに声掛けをしていましたがなかなか興味を持ってもらえず、既存メンバーは疲弊し始めている状況でした。また、イベントに出演したとしても利益が出るような出演料をもらえることは多くなく、出演メンバーは無償で休日の時間を使って活動を続けていました。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A 申請する1年前から多良間島の八月踊りに練習期間から参加し、獅子舞や棒踊り、ヨーンシーで本番にも出演していました。多良間島でも演者の人手不足の課題を抱えていることを知り、多良間島のメンバーと交流を深めることでお互いのメンバーを送り合うような関係性が作れるのではないかと考えました。これを機に若干異なっていた獅子舞の型や衣装を本場多良間島宇塩川の型に統一することにしました。ちょうどその頃に本補助金のことを知り、獅子舞だけではなく、棒踊りとヨーンシーを学ぶために金丸獅子メンバーを派遣し、獅子座の座員を本島に招聘し指導を受け、イベント出演時に共演すること、さらに宇塩川の神獅子と同じ寸法の獅子を製作するために申請しました。

Q 補助を受けることで、どのような取り組みが可能となりましたか？

A 多良間島の獅子座の方々と交流することで、獅子舞だけでなく、棒踊りやヨーンシーなど他の演目を学び、金丸獅子としても披露できるようになりました。これによりイベントの出演時に10～15分程度の獅子舞だけではなく、棒踊りやヨーンシーを含めて30分ほどの枠を埋めることができ、さらに他の団体と共演することで40分～1時間のプログラムを組むことも可能になりました。

Q 支援を受けて助かったこと、良かったことはありますか？

A 八月踊りに向けた練習に参加し、準備を進めるなかで祭りの背景や出演者たちの気持ちに触れることができました。さらに在沖多良間郷友会との交流も生まれ、金丸獅子の活動に参加してくれるメンバーも増えました。また多良間島では八月踊りの後に、子どもたちが端材などで手作りの獅子を作り、家々の玄関先で見よう見まねで獅子舞を演舞してお小遣いをもらう習慣があることを知りました。金丸獅子の出演時にも幼稚園児・小学生による子ども獅子の時間も設けるようになり、それまで舞台袖でパーランクーを叩いていた子どもたちが衣装を身にまとい舞台の中心で一糸懸命踊っている姿を見ると、とても誇らしく思います。

Q これまでの取り組みを終えて、どのような成果が得られたと思いますか？

A 一番大きな成果は、多良間島の獅子座の方々と交流を深めたことです。本事業でお互いのメンバーを送り合い共演したことで、今後も続いていく信頼関係を築けたと思います。前述の通り、演舞できる演目が増えたことにより、出演できるイベントの幅も広がりました。先日、商業施設でイベントを組んでもらい、空手古武道の団体と共演することで、獅子舞、棒踊り、ヨーンシー、子ども獅子を含む50分のステージをプロデュースすることができました。将来的に、金丸獅子として舞台をプロデュースできるようになれば、出演料の交渉も含め金銭的な安定につながると思います。

Q 今後の目標や展望をお教えてください。

A 今後は沖縄県内での活動を続けながら、県外・海外での出演機会に備えて、人材の確保と金銭的に継続可能な運営をしていきたいと思っています。そして、一番重要なのは子どもたちとの関わりです。子ども獅子や他の演目での子どもたちとの関わりをより深めていくことで、10年後、20年後も活動を続けていける体制を築いていきたいです。



那覇市でのイベントにて、ヨーンシーの演舞を終えて



金丸獅子の子どもたちによる獅子の演舞



多良間八月踊りにて演舞する波平直毅さん

オキナワ担い手未来

アートプロジェクトを
実践する人たちを育てる

1. 実践編 「地域との出会いと交流を実践する」

令和5年度に講座形式で実施したプログラム(全9回)では、外部講師による講義・ワークショップをとおして、受講者が各々のアートプロジェクトプランを提案しました。令和6年度は、提案のあったプランをブラッシュアップし、アートプロジェクトの実践に取り組みました。

活動メンバー 令和5年度に実施されたプログラム受講者のうち4名

取り組み内容 「地域との出会いと交流を実践する」をコンセプトに掲げ、那覇市内にある太平通り商店街を舞台にアートプロジェクトを企画・実施しながら、沖縄の良さや可能性を再発見していく試みを展開しました。

プロジェクト発表

『\』—アーティストと共に地域との出会いと交流を実践する—
会 期：2025年3月11日(火)～3月16日(日)
会 場：太平通り商店街(沖縄県那覇市松尾2丁目24-13) /
LESTEL NAHA(商店街内)

テーマ① | オアシスはつくれるのか

太平通り商店街内にある「Art Oasis」での仮設滞在やフィールドワークをとおして「まち自体を滞在拠点(レジデンス/アトリエ)とする可能性」を探り、インスタレーションや資料展示を行いました。



テーマ② | 激動、変遷、これから

戦後激動の時代からさまざまな変遷を経て今に至る太平通り商店街のことを、アーティストによる滞在制作をとおしてともに見つめ、これから先の未来を考える場づくりに取り組みました。



招聘アーティスト：近藤康平(画家・ライブペイントパフォーマー)
滞在制作・展示期間：2025年3月11日(火)～3月16日(日)
会 場：LESTEL NAHA(太平通り商店街内)
〈Live Performance〉実施日：2025年3月11日(火)19:00～ / 16日(日)18:00～
出 演：近藤康平 / 〈11日〉lan and Kevin, 8bit / 〈16日〉比屋定篤子&ドンク保田(デュオ)

テーマ③ | 太平通り地域史マッピング

太平通り商店街にフォーカスし、地域に堆積してきた時間や歴史の一端を地域の人たちにヒアリングして、その内容を地図や写真とあわせて可視化したマップを作成し展示しました。



テーマ④ | つながるステージ

沖縄で活動する演劇団体やパフォーマーが、太平通り商店街で即興劇やストリートパフォーマンスを実施しました。精神疾患を持つ人たちも共演し、地域の物語やメンタルヘルスをテーマにした演劇を通じて、観客に「気づき」の体験を提供しました。



実施日：2025年3月14日(金)15:00～17:00 / 15日(土)13:00～15:00
会 場：太平通り商店街内
参加アーティスト：島袋寛之・ナツコ(Team SPOT JUMBLE)他

各取り組みの様子やレポートは
Instagramで公開しています。



2. オキナワ担い手未来 in 石垣

公募により集まった方々を対象に、石垣市にて2日間の集中講座を実施しました。世代も職種も出身も多種多様な面々が参加しました。個性あふれる講師陣とともに、文化芸術の課題解決を考え、新たな視点を創造する絶好の機会となりました。



実施期間：2024年11月23日(土)・11月24日(日)
会 場：まちなか交流館ゆんたく家(沖縄県石垣市大川203)

CHAPTER.1

「文化芸術の価値とは何か」

日 時：2024年11月23日(土)13:00～15:30
講 師：中村 美亜(九州大学大学院芸術工学研究院教授)

「なぜ文化芸術は必要なのか」、世界各国で展開されているさまざまなアートプロジェクトの取り組み事例を交え、多角的に読み解きながらその特徴や課題について学び、ワークショップを交えて文化芸術の価値について議論しました。

CHAPTER.2

「アートプロジェクトのディレクションと運営」

日 時：2024年11月23日(土)16:00～17:30
講 師：八巻 真哉(アートディレクター/キュレーター)

アーティストや地域の人々と協働し、京都府域のまちなどを舞台にアートプロジェクトを展開してきたALTERNATIVE KYOTOの取り組みを例に、持続可能なアートプロジェクトのこれからのあり方や、運営体制の仕組みづくりについて考えました。

CHAPTER.3

「思いをオファーしてみる」

日 時：2024年11月24日(日)10:00～12:00
講 師：武田 力(演出家/民俗芸能アーカイバー)

演出家・民俗芸能アーカイバーとして、社会の課題を独特な視点で見つめ、表現活動を行う講師の活動紹介を踏まえ、受講者各々が思う石垣島の社会課題に対処するためのオファーを“嘘/演劇”として講師に投げかけました。演劇で遊びながら、軽やかに社会課題を共有しました。

CHAPTER.4

「新たな目線で街を見つめる(フィールドワーク)」

日 時：2024年11月24日(日)13:00～16:30
講 師：石川 竜一(写真家)

石垣島の街中を歩きながら、「自分にとって価値のあるものを見つける」体験型の講座を実施しました。集めたものを発表し、受講者同士で交換し合いました。アートプロジェクトや作品プランを組み立てていくためのヒントやまちの課題、新たな魅力に対して視野を広げ、参加者同士の意見交換を行いました。

CHAPTER.5

「地域に根ざした文化・芸術活動の可能性(報告会及び振り返りディスカッション)」

日 時：2024年11月24日(日)17:00～18:00
講 師：石川 竜一(写真家)・武田 力(演出家/民俗芸能アーカイバー)

2日間にわたる講座の締めくくりとしての座談会。受講者と講師陣が自由な意見を交わし、地域での文化活動やアートプロジェクトの可能性について語り合いました。

沖縄アーツカウンシルの
ホームページにて、各CHAPTERの
レポートを掲載しております。



レポート前半

レポート後半

その他の取り組み

ぶんかとはほじょきんそうだん会

沖縄県内で文化芸術に関わる活動をしている方を対象に、プログラムオフィサーによる相談機会の提供に取り組みました。補助金のしくみや申請書の書き方など基本的なことから、助成プログラムの各種ご案内、日ごろの活動のお悩み相談まで、文化芸術に関する幅広い内容のお話を専門スタッフがうかがいます。毎月20日、定期開催しています。

令和6年度相談件数

230件

(令和7年2月現在)

ぶんかとはほじょきん大相談会 「文化芸術活動のお金のおはなし」開催！

秋の助成金シーズン到来を前に、文化芸術活動に関する助成金にどのようなものがあるのか、レクチャー形式で紹介する「ぶんかとはほじょきん大相談会」を開催しました。「文化芸術活動に必要な資金はどう調達できるか」「それぞれの助成金の特徴は？」「申請書を書く時のコツは？」「審査・選考の視点は？」「公的助成と民間助成の傾向の違いは？」など、沖縄県内に限らず全国の補助金や助成制度を紹介し、中長期の視点で活動資金を調達するための考え方と準備の共有をめざしました。

日時 2024年10月5日(土) 10:00～12:30

- ・10:00～12:00 | 情報提供レクチャー「文化芸術活動のお金のおはなし」
- ・12:00～12:30 | 会場からの質疑応答

話題提供者

若林 朋子

プロジェクトコーディネーター、
立教大学大学院社会デザイン研究科 特任教授、
沖縄アーツカウンシル アドバイザーボード

1999～2013年(公社)企業メセナ協議会勤務。プログラム・オフィサーとして企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事(ネットTAMの立上げ、運営等)。2013年よりフリーランス。コーディネーター、芸術環境の整備支援、調査研究、助成事業設計、自治体の文化政策やNPOの運営支援等に取り組む。

聞き手

樋口 貞幸

社会福祉士

これまでに芸術系NPOの中間支援組織に所属し、さまざまな助成金に事業者として申請してきたほか、文化庁の助成金の審査委員を務めてきた。前沖縄アーツカウンシルチーフプログラムオフィサー。

進行

上地 里佳

沖縄アーツカウンシル チーフプログラムオフィサー

会場

八汐荘 1階 屋良ホール 半室B
(沖縄県那覇市松尾1-6-1 沖縄県教職員共済会館)



沖縄県文化芸術名鑑

掲載項目数：49件

沖縄県内を中心に活動するアーティストやクリエイターの紹介、文化団体、文化施設などの情報を掲載しています。魅力あふれる沖縄県の文化芸術に関する人や場所を紹介し、より多くの方々に知っていただくことを目的にデータベース化しています。



<https://db.shimacul.okinawa/>

令和6年度に公開したインタビュー記事

YUIKO

(バイオリニスト・音楽家)

「生かされていない宝の山」

宮本 進吾

(「現代食堂」オーナー)

「何かから逃れ、整理できる場所」

胡宮 ゆきな
(アーティスト)

「沖縄への愛着を新しい風習を作る」

池村 真理野
(サクソ奏者)

「“人”に生まれて良かったと思える“場所”」

波平 常義
(獅子舞演者)

「何気なく当たり前に過ごしてきた、土台みたいなもの」

富田 千夏

(琉球大学付属図書館職員)

「島なんだけど、海があるからいろいろな所に行け、海で世界とつながっている」

鍋澤 研二

(料理人)

「豊かさに気付かされる場所」

また、「沖縄県文化芸術名鑑」の広報周知を兼ね、那覇市および宮古島市の2カ所で、トークイベント「Okinawa Arts Meeting」を実施しました。

Okinawa Arts Meeting

那覇会場

日時 2025年1月18日(土) 14:00～16:30

会場 沖縄県立図書館 交流ルーム
(沖縄県那覇市泉崎1丁目20-13 4階)

第1部 | アーティストトーク「見えている風景」

石垣 克子(画家)

ファシリテーション /

小田井 真美(さっぽろ天神山アートスタジオディレクター)

第2部 | 座談会「沖縄の文化・芸術の価値を伝え、繋ぐ」

又吉 啓(アーティスト)

知念 冬馬(知念紅型研究所)

伊敷 祐希(一般社団法人C-BRASSウインドオーケストラ)

進行 / 八巻 真哉(沖縄県文化振興会)



Okinawa Arts Meeting

宮古島会場

日時 2025年1月23日(木) 18:30～19:45

会場 未来創造センター 研修室1・2
(宮古島市平良字東仲宗根807番地)

話題提供およびディスカッション

「宮古諸島の文化をどのように学び、伝え、繋ぐことができるのか」

荻野 鉄矢(ミュージシャン)

與那覇 光秀(ライター)

ファシリテーション /

遠藤 美奈(沖縄県立芸術大学音楽学部准教授)



第2回先島文化ミーティング 「先島文化を次世代へつないでいくには？」



レポートはこちら

先島の多様な文化／カルチャーをテーマに、ひらかれた場でゆるやかに話し合う先島文化ミーティング。第2回は「先島文化を次世代へつないでいくには？」と題し、石垣島と宮古島、それぞれの島からゲストをお招きし、石垣市にてトークイベントを開催しました。それぞれの取り組みや問題意識を手がかりに、会場に集った来場者とともに考え、先島から文化芸術の先を望む新しい視座につなげていくことを試みました。



日時 2025年1月22日(水)17:00～19:30
会場 イベント＆ワーキングスペース チャレンジ石垣島
(石垣市宇登野城510番地 1階)

登壇者

大瀨 豪 株式会社島監農園 代表取締役
新城 大地郎 アーティスト・PALI GALLERY(パリギャラリー)ディレクター

司会

上地 里佳 沖縄アーツカウンシル チーフプログラムオフィサー
小川 恵祐 同プログラムオフィサー

沖縄文化芸術の創造発信支援事業 採択件数・補助金額

()は継続事業数

| 公募による採択件数・補助金額等 | | 応募総数 | 採択件数 | 採択率 | 補助確定額 |
|-----------------|---------|-------|-------|-------|--------------------|
| | | 令和4年度 | 団体 | 23 | 9 |
| | スタートアップ | 6 | 4 | 66.7% | 3,451,000円 |
| | 個人事業主 | 23 | 9 | 39.1% | 7,387,000円 |
| 令和5年度 | 団体 | 26 | 9(6) | 34.6% | 25,658,000円 |
| | スタートアップ | 5 | 5(1) | 100% | 3,753,000円 |
| | 個人事業主 | 14 | 7 | 50% | 6,021,000円 |
| 令和6年度 | 団体 | 41 | 13(4) | 31.7% | 37,700,000円(交付予定額) |
| | スタートアップ | 13 | 4(1) | 30.7% | 2,863,000円(交付予定額) |
| | 個人事業主 | 12 | 6 | 50% | 5,337,000円(交付予定額) |

※令和5年度においては、1団体、都合により事業中止

平成29年度～令和5年度までの補助事業で実施した



※ただし、数万人が来場する大規模イベントのブース参加のうち、実数が抽出できないものは割愛



編集後記

2025年2月末。私の今年度事業の締めくくりは、故郷の宮古島での取り組みでした。伊良部大橋から空港へと向かう車窓から望む、穏やかな海と琉球石灰岩からなる平坦な風景に安堵する一方、目まぐるしく変化する社会情勢によって変容した海岸線の景色や、いつの間にか最前線として語られるようになった島々の現在地に複雑な思いを抱え、那覇に戻ったのを覚えています。

文化芸術の可能性をひらくための公的支援のかたちや、事業に伴走するプログラムオフィサーが担う役割とは。沖縄アーツカウンシルが導入されてから13年が経ち、時間の重なりとともに蓄積されてきた思考の軌跡を紐解いていくことに、「沖縄」の文化芸術支援のありようを模索するヒントがあると考えています。沖縄の文化芸術が持つ可能性と直面する課題について語らい、それぞれの現場が向き合った中での気づきや感動、戸惑いや葛藤、声を伝えていくこと。本事例集をとおして、関心領域や手法は違えど、沖縄を真摯にまなざし、新たな表現や対話を試みる現場に宿る熱量を感じてもらえたら幸いです。このような一つひとつの実践の積み重ねが、多様な人々との関係性をつくり、沖縄の文化芸術を育み、新たな視野をひらいていくのだと信じています。

チーフプログラムオフィサー
上地里佳

OKINAWA ARTS COUNCIL

2024 > 2025

令和6年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 支援事業事例集

発行日 令和7(2025)年3月

発行者 沖縄県

編集・執筆 上地里佳 / 具志幸大 / 小川恵祐 / 橋口知佳子 /
喜舎場梓 / 国永美智子 / 奥間恵 / 八巻真哉

デザイン 久高美保



OKINAWA ARTS COUNCIL

公益財団法人沖縄県文化振興会 沖縄アーツカウンシル
〒901-0152

沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター6階 605号室
TEL 098-987-0926 FAX 098-987-0928

<https://www.okicul-pr.jp/oac/>



Web



Facebook



Instagram

OKINAWA ARTS COUNCIL